

I. 2018年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当:石橋 基範、中西 美和}

【総 数】

(単位:人)

会 員	2018年4月1日	2019年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,370	1,368	82	84

会員資格

変更

正会員:	1,297	1,276	52	79	-27	6
準会員:	73	92	30	5	+25	-6

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2018年4月1日	2019年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	26	32	6	1	+5(+1)
東 北	50	50	3	3	0(0)
関 東	751	748	44	45	-1(-2)
東 海	121	122	8	7	+1(0)
関 西	244	243	17	20	-3(+2)
中国・四国	103	99	1	5	-4(0)
九州・沖縄	68	67	3	3	0(-1)
国 外	7	7	0	0	0(0)
賛 助 会 員	28社29口	28社29口	2社2社	2社2口	0社0口

2. 事業報告

{総務担当：石橋 基範、中西 美和}

2018年度は、一般社団法人日本人間工学会第6期（2018年6月～2020年6月）の1年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた新たな取り組みをスタートさせた。臨時委員会として若手支援委員会、企業活動推進委員会を新設し、縦（世代間）のつながり、横（産業界）のつながりの強化を図った。同時に、学会改革・戦略委員会（第5期より継続）を中心に学会の活性化に向けた施策を検討した。

- (1) 2018年定時社員総会を2018年6月2日に宮城学院女子大学において開催し、2017年度事業報告・収支決算、2018年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第59回大会を大橋智樹大会長のもと2018年6月2日(土)～3日(日)に宮城学院女子大学で「社会的レジリエンスに資する人間工学」の主題のもと開催した。
- (3) 機関誌「人間工学」の第54巻2～6号及び第55巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を2018年4月25日、6月1日、6月2日、9月13日、2019年2月21日の計5回開催した。
- (5) 2018年度論文賞（1件）、研究奨励賞（1件）、グッドプラクティス最優秀賞（1件）、優秀賞（1件）の表彰を行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者3名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験：今回で終了)合格者33名、準専門家合格者13名、アシスタント1名を新たに得た。その結果、2018年度末現在の認定人間工学専門家は223名、準専門家122名、アシスタント12名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナー等を開催し、会報を4回発行した。
- (7) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

7-1) 広報委員会

ホームページでの情報発信、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。リーフレットを刷新し、支部大会等で配布するとともにホームページ上からダウンロードできるようにした。Facebookの運用について検討した。

7-2) 編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実に努めた。編集委員会は対面、電子合わせて12回開催した。本年度は、投稿49編（原著論文33編、リサーチ・イシュー2編、短報6編、実践報告6編、技術報告1編、オープンデータ1編）を受け付けた。採否が判定した投稿論文は28編（採択12編、不採択15編、取り下げ1件、採択率42.9%）であった。

7-3) 国際協力委員会

IEA評議会（2018.8.24-25@フローレンス）、ACED評議会（2018.8.28@フローレンス、2018.12.10-11@バンコク）、ACED PS&E委員会（2018.3.16-17）等、国際協力関連会議に委員長初め各委員が出席した。

7-4) ISO/TC159国内対策委員会

DIS等の規格原案に関する計23件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議3回、分科会36回）審議を行った。また、国際会議出席（18回、のべ59名出席）などによって5件の新ISO規格の発行に寄与した。

7-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営のもと、2018年度各賞受賞者に対する授与式を行った。2019年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。国際協力委員会とともに、IEAに表彰候補者の推薦等を行った。

7-6) 安全人間工学委員会

社会への情報発信、他学会とのリエゾン、安全工学シンポジウム2018でのOSの企画・運営を実施した。また、安全人間工学研究部会が主催・共催するシンポジウム・研究会の企画・立案・実施をサポートした。

7-7) 学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

7-8) 企画担当

全国大会において、学会・大会共同企画シンポジウム「知のネットワークを生かす社会的レジリエンス」と学

会本部主催教育講演：学生・若手向けの教育講演シリーズ3「人間工学研究で役立つ統計学（ランチセッション）」を開催した。

7-9) 若手支援委員会

若手会員（20代学部生・大学院生中心）が研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動（学生交流カフェの開催）を行った。

7-10) 企業活動推進委員会

委員会メンバー、オブザーバーで構成されるメーリングリストを立ち上げた。関東支部大会に合わせて、委員会の対面会議を開き、企業における人間工学活動を推進するためにアンケート調査を実施した。学会員に占める企業所属会員の割合のトレンド変化を調査した。全国大会にライトニングトークを含むシンポを企画した。

7-11) 学会改革・戦略委員会

多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤を整備するために、学会活動の活性化をはかる5つのアクションプラン(AP1~5)について、実装策の検討を行った。人間工学版ハッカソンプロジェクトとして、人間工学の設計手法・課題解決手法を学ぶプログラムの検討・開発を行った。

7-12) 人間工学研究のための倫理指針検討委員会

人を対象とする研究倫理の教育・啓発活動を行うために、第60回大会で委員会企画シンポジウムを企画・提案した。また、「人間工学研究のための倫理指針」の改訂案の作成に着手した。

7-13) 子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題について情報交換するとともに、これまでに検討してきたことを基に、委員会のウェブサイトを作成し、学校での安全快適なICT機器活用について情報公開を行った。また、文部科学省などで、委員会活動について紹介した。

7-14) IEA担当

IEA会長を任期満了まで務め、常任役員会議（EC会議）および評議会会議（Council会議）の運営、会員の要望への対応、その他IEAの事業方針に沿った活動を実施した。また、IEAウェブサイトの運営業務にも従事した。

7-15) 第59回大会担当

第59回大会（大橋智樹大会長・宮城学院女子大学）を6月2日（土）～3日（日）に宮城学院女子大学（宮城県仙台市）にて開催した。特別講演や大会企画を中心に、一般企画シンポジウム、一般発表（171件）、機器展示、懇親会等を行った。

(8) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、システム大会部会の計11研究部会が、多彩な活動を行った。

(9) 関連学術団体等と、59件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(10) 学会事務局では、JENC事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集のJ-STAGEへの公開を進め、学会HPおよびJESニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信した。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めた。
- (3) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、開設 10 周年の記念企画を計画した。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行った。
- (5) 学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を、引き続き学会事務局と連携し推進した。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の英訳掲載に向けて、検討した。
- (7) Facebook ページを作成し公開した。
- (8) リーフレットを刷新し、支部大会等で配布するとともにホームページ上からダウンロードできるようにした。

3-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：村木 里志}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 平成30年04月：第54巻2号 (pp. 41-92) : 実践報告1編、オープンデータ1編、原著3編 資料1編 他
 - 2) 平成30年06月：第54巻3号 (pp. 93-152) : 実践報告1編、原著4編、短報1編 他
 - 3) 平成30年08月：第54巻4号 (pp. 153-196) : 原著3編 他
 - 4) 平成30年10月：第54巻5号 (pp. 197-218) : 原著論文1編、短報1編 他
 - 5) 平成30年12月：第54巻6号 (pp. 219-266) : 実践報告1編、原著1編、原著論文1編 他
 - 6) 平成31年02月：第55巻1号 (pp. 1-24) : リサーチ・イシュー1編、原著1編 他
- (2) 実践科学としての人間工学分野の研究のニーズに応えるべく、新しい記事区分として、リサーチ・イシュー、実践報告、オープンデータの掲載を始めた。また、記事の名称を原著(contribution)から原著論文(original paper)に変更した。これらの掲載数は、リサーチ・イシュー1編、実践報告3編、オープンデータ1編、原著論文1編であった。
- (3) クイック・レビュー(QR)制度
論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。QR制度の仮登録者は36名、本登録者は22名、論文投稿者は9名(採択3件、不採択4件)であった。
- (4) 編集委員会
対面委員会とメーリングリストによる電子編集委員会を隔月ごとに計12回開催した。対面委員会のうち2回は全体会議(6月仙台, 12月東京), 4回は複数拠点を結んだweb会議(2月東京・大阪, 4月東京・名古屋・大阪, 8月東京, 10月東京)とした。いずれも、個人単位のweb参加も可能とし、委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。
- (5) 投稿論文数・採択率・査読期間
前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。
平成30年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が40編(原著論文24編, 総説0編, リサーチ・イシュー2編, 短報6編, 実践報告6編, 技術報告1編, オープンデータ1編), QR制度投稿論文が9編(原著論文9編)であり、総数は49編(原著論文33編, 総説0編, リサーチ・イシュー2編, 短報6編, 実践報告6編, 技術報告1編, オープンデータ1編)であった。平成30年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が21編(採択9編, 不採択11編, 取り下げ1件, 採

採率42.9%)、QR制度投稿論文が7編(採択3編、不採択4編、採択率42.9%)であり、全体では28編(採択12編、不採択15編、取り下げ1件、採択率42.9%)であった。平成30年度中に決定した査読者の延べ人数は123名(うち非会員者11名)であった。また、平成30年度に判定が確定した論文の平均査読期間(全投稿区分の投稿受付日から最終判定日までの日数)は、通常投稿が108.6日(採択131.8日、不採択89.6日)、QR制度投稿論文が164.6日であり、全体では120.8日であった。

(6)その他、編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長：鳥居塚 崇、副委員長：小谷 賢太郎}

(1)委員会開催

MLによる委員会の開催、そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2)理事会審議・報告

IEA2018Florence大会、IEA評議会Florence開催報告とIEA関連の国際表彰について、IEAフェロー申請と推薦候補の検討についての審議、ACED評議会FlorenceおよびACED評議会Bangkok報告など

(3)国際交流

- ・IEA評議会(フローレンス、8月24-25日)への参加

鳥居塚委員長、小谷副委員長、榎原委員、および藤田IEA会長、河合IEA ICT委員長が出席し、ECメンバー報告、International Development Committee報告、Professional Standards and Education, Science, Technology and Practice Committeeなどからの報告、Historian report、IEA60周年記念イベント、Liberty Mutual Medalの受賞者報告などが行われた。

- ・国際表彰対応(提出資料の準備、表彰委員会との連携、IEA Award Committeeとの事務対応)
- ・鳥居塚委員がIEA PS&E副委員長として協力することとなった
- ・ACED評議会(フローレンス、8月28日)
- ・ACED評議会(バンコク、12月10-11日)
- ・ACED PS&E委員会(台北、3月16-17日)

(4)英称学会名変更の検討

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

(1)委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会:全体会議3回、分科会36回(メール審議含む)
- ・国際会議出席状況:18回の国際会議に延べ59名出席(ネット会議を含む)

(2)発行規格、投票

〈新ISO規格〉:5件

- ・ISO 27501:2019 The human-centred organization — Guidance for managers.
- ・ISO 9241-220:2019 Ergonomics of human-system interaction — Part 220: Processes for enabling, executing and assessing human-centred design within organizations
- ・ISO 9241-306:2018 Ergonomics of human-system interaction — Part 306: Field assessment methods for electronic visual displays
- ・ISO 9241-500:2018 Ergonomics of human-system interaction — Part 500: Ergonomic principles for the design and evaluation of environments of interactive systems
- ・ISO 24508:2019 Ergonomics — Accessible design — Guidelines for designing tactile symbols and characters

〈投票〉：NP:11件、CD:6件、DIS:5件、FDIS:6件、DTR:1件、SR:10件、CIB:6件

(3)分科会活動（メール審議含む）

- | | | |
|------------------------------|---------|----------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査:青木和夫 | 分科会3回開催 |
| ・SC3(人体寸法と生体力学)&WG | 主査:榎原毅 | 分科会1回開催 |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション)&WG&SG | 主査:福住伸一 | 分科会26回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学)&WG&SG | 主査:齊藤宏之 | 分科会4回開催 |
| ・アクセシブルデザイン関連会議 | 主査:青木和夫 | 分科会2回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：水野 有希}

- (1)表彰選考等に係る広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営を行った。
- (2)平成30年定時社員総会において論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行った。
- (3)関西支部大会、関東支部大会において、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4)功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞候補の選考を行うとともに、表彰の準備を行った。
- (5)国際協力委員会とともに、IEAに表彰候補者の推薦等を行った。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：首藤 由紀、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1)青木（日大）・北村（鉄道総合技術研究所）・酒井（労働科学研究所）・佐相（電力中央研究所）・首藤（社会安全研究所）・鳥居塚（日本大学）・中西（慶應義塾大）・芳賀（社会安全研究所）・山出（社会安全研究所）・吉村（海上技術安全研究所）の10人の委員で活動した。
- (2)日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第19回「安全・安心のための管理技術と社会環境ワークショップ—報・知識の共有による安全・安心の確保—」を主催した。（平成30年12月22日（土）筑波大学東京キャンパス文京校舎）
- (3)日本学術会議安全工学シンポジウム2018の実行委員に佐相委員が就任し、「Safety-2：成功事例を分析する実践的取り組み」をテーマとしたオーガナイズド・セッションを企画・運営した。
- (4)安全工学会外部有識者アドバイザリーボードに芳賀委員が出席している。
- (5)安全人間工学研究部会による研究会の企画に助言等を行った。

3-7. 学術担当

{担当：横井 郁子、青木 和夫}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

横幹連合へ学会推薦理事として参画した（横井理事）。

3-8. 企画担当

{担当：岡田 明、三坂昇司}

- (1)第59回全国大会（@宮城学院女子大学）において、以下の学会企画を実施した。

- 1) 学会・大会共同企画シンポジウム：「知のネットワークを生かす社会的レジリエンス」、オーガナイザー：狩川大輔（東北大学大学院）（開催日：2018年6月2日）
 - 2) 学会本部主催教育講演：学生・若手向けの教育講演シリーズ3「人間工学研究で役立つ統計学（ランチセッション）」、講演者：榎原 毅（名古屋市立大学大学院）（開催日：2018年6月3日）
- (2)若手研究者・学生・企業研究者のニーズ発掘を促進し、より魅力的な企画を策定するため、企業所属の若手会員が企画担当として加わることとなった。

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：鳥居塚 崇}

(1) 会員状況（2019年3月31日現在）

人間工学専門家 223名（2018年度 資格取得者 36名、退会者 11名）
 人間工学準専門家 122名（2018年度 資格取得者 12名、退会者 8名[内2名は専門家へ登録]）
 人間工学アシスタント 12名（2018年度 資格取得者 0名、退会者 0名）
 シニア認定人間工学専門家 8名

(2) 資格認定試験及び審査実施状況

資格認定試験（A方式試験）を1回実施、受験4名、合格3名
 筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を1回実施、応募者33名 合格33名
 準専門家：応募14名、書類審査に13名合格 アシスタント：応募1名、書類審査に1名合格

(3) 定期総会・講演会の開催

講演会 日時：2018年4月17日（火）14：45～16：20 テーマ「企業におけるUXの実践」
 講演1：井出有紀子（NEC）「現場を考慮した新システムの企画/リニューアルの事例紹介～NECのユーザーエクスペリエンス（UX）手法を用いて～」
 講演2：松本啓太（富士通デザイン）「UXデザインとイノベーションの潮流およびICT企業での人間工学の活用」
 総会 日時：2018年4月17日（火）16：30～17：30（総会后、交流会を開催）出席者：42名、委任状：108名

(4) 幹事会の開催

第40回 日時：2018年9月26日（水）17：00～19：00 場所：芝浦工業大学芝浦キャンパス
 第41回 日時：2019年3月19日（火）9：30～12：00 場所：理化学研究所

(5) 再認定の実施

- ・人間工学専門家63名、人間工学準専門家12名、人間工学アシスタント1名の再認定手続きが完了した。
- ・CPEシニア制度について2018年11月1日より運用を開始し、8名が登録した。

(6) シンポジウム、機構紹介の実施

- ・日本人間工学会第59回大会（2018/6/3、仙台市）シンポジウム「活躍する人間工学専門家」
- ・各支部大会でのPR講演実施
 九州・沖縄支部大会（11/9）、関西支部大会（12/8）、中国・四国支部大会（12/8）、関東支部大会（12/15）

(7) CPEセミナーの開催

開催日時：2018年11月15日（木）14：00～17：00 会場：三菱電機株式会社デザイン研究所
 テーマ「三菱電機における人間工学研究の取り組みについて」 参加者：30名

(8) CPEサロン（交流会）の開催：計1回、関東で開催した。

開催日時：2019年2月26日（火）15：30～17：50 会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス
 テーマ「専門家の活動から学ぶ～失敗は成功の母～」 参加者：20名

(9) 準専門家ポスターの作成

準専門家ポスターデザインを公募し、選考の上、最優秀賞となったデザインを機構の準専門家資格ポスターとして完成させた。今後このポスターを配布・掲示しPRを積極的に行う。

(10) 会報作成

会報を4回(第55~58号)発行した。また、会報Web版(57号)と英語版(March 2019)を発行した。

(11) 人間工学グッドプラクティス(GP)賞

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月のJES第59回大会にて第7回の表彰を行った。

[臨時委員会・担当]

3-10. 若手支援委員会

{委員長：申 紅仙、副委員長：加藤 麻樹}

若手会員(20代学部生・大学院生中心)が研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行った。具体的活動は以下の通り。

- (1) 学生交流カフェⅠ キックオフミーティング(2018年6月2日 第59回大会)
- (2) 学生交流カフェⅡ (2018年12月15日 関東支部第48回大会)

3-11. 企業活動推進委員会

{委員長：易 強、副委員長：善方 日出夫、下村 義弘}

(1) 委員会用マーリングリストの立ち上げ

委員会メンバー(8名)、オブザーバー(10名)で構成されるマーリングリストを立ち上げた。

(2) 企業における人間工学活動を推進するためにアンケート調査

企業活動推進にあたり、委員会メンバーに5項目からなる簡単なアンケートを実施した。企業とアカデミックそれぞれの立場から見た人間工学に対するイメージや、それぞれの立場への期待について、定性的に比較を行った。

(3) 学会員に占める企業所属会員の割合のトレンド変化を調査

最近10年学会会員のうち企業に所属する割合が近年低下してきている(41%→39%)ことがわかった。

(4) 第60回全国大会にライトニングトークを含むシンポを企画

人間工学の分野に拘らず、企業の現場で発生した事案に関する事例報告、調査のまとめ、日頃に抱える疑問をまとめて問題提起し、解決策の呼びかけ、面白い社会現象の紹介、蓄積したデータの見方の検討、共同研究や製品開発に実践した人間工学活動の裏話(失敗事例も含む)など6件、学会初の1演題5分のライトニングトークセッションを含むシンポ「企業における人間工学活動氷山の一角」を企画した。

3-12. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：山田クリス孝介}

(1) 学会設立後50年が経過し、既存の学会運営モデルでは時代のニーズに即応することが困難となりつつある。多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤としてまとめた5つのアクションプラン(AP1~5)について、実装策の検討を行った。

(2) 委員会を計3回(第1回：2018/9/13、第2回：2018/11/7、第3回：2019/2/21)開催した。

(3) 広報委員会より引き継いだヴァーチャル・ミュージアム事業をアクションプラン3「理事会主導プロジェクトの実施」の枠組みに位置づけ、学生対象コンペ企画として組み込むこととした。

(4) 人間工学版ハッカソンプロジェクトとして、人間工学の設計手法・課題解決手法を学ぶプログラムの検討・開発を行った。トライアル企画として「ErgonomicThon ワークショップ」を東海支部の協力の下、開催し、プログラムの精緻化をはかった。トライアル企画の内容は、学会誌vol. 54(6)に開催報告として寄稿した。

(5) JES学会改革・戦略委員会、若手支援委員会、広報委員会、企業活動推進委員会、国際協力委員会、企画担当理事

との協同により、第60回大会でのコラボ企画を策定した（ErgonomicThon+学生交流(ランチョン)カフェⅢ～研究とキャリアについてかたりませんか?～, 2019/6/15)

- (6) 第59回日本人間工学会大会長と連携し導入した大会講演集の電子化についてのアンケートを大会会場で実施、電子講演集のニーズおよび満足度は高いが、事前周知の不備や利便性については課題が残ることが明らかとなった。

3-13. 倫理指針検討委員会

{委員長:石橋 基範、副委員長:榎原 毅}

- (1) 2017年度に実施した「人を対象とする研究倫理に関する意識調査」の結果より、学会として研究倫理の教育機会を提供していく必要があることが分かった。それを受けて、教育・啓発活動の一環として、第60回大会で委員会企画シンポジウムを企画・提案した。
- (2) 前記調査結果を反映して、「人間工学研究のための倫理指針」の改訂案の作成に着手した。

3-14. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく、そして実用的なガイドラインの作成を検討してきた。今年度は、これまでに検討してきたことを基に、子どもの ICT 活用委員会のウェブサイトを作成し、情報公開を行った。そのウェブサイトでは、学校での ICT 機器利用について、安全面や健康面の配慮をした方がよい点に関して要点をまとめ、情報を提供している。
- (2) 委員会の取り組みを、2018年6月に開催された、文部科学省の「デジタル教科書」の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン検討会議において紹介した。
- (3) 2019年3月に文部科学省により発行された、学習者用デジタル教科書実践事例集のコラムにおいて、本委員会の活動及びウェブサイトについて紹介し、委員会活動を学校関係者へ広く周知した。
- (4) 上記の他にも本委員会の活動を広く周知させることに努め、柴田委員が所属大学で開講した教員免許状更新講習において、教員免許状を有する学校教員に対して、本委員会の活動や人間工学的視点について紹介した。

3-15. IEA 担当

{担当:藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 会長の業務にあたり、8月末に任期満了にて会長を退任した（藤田祐志）。
- (2) IEA ウェブサイトの運営業務、および次期 IEA ウェブサイトの計画に着手した（河合隆史）。

3-16. 第 59 回大会担当

{担当:大橋 智樹}

2018年6月2日（土）～3日（日）、日本人間工学会第59回大会を宮城学院女子大学（宮城県仙台市）にて開催した。参加者数は、名誉会員3名、正会員209名、学生会員17名、非会員（一般）79名、非会員（学生）61名、協賛学会員（一般）11名、協賛学会員（学生）3名、賛助会員3名、展示企業関係者25名の合計411名だった。また初日の一般公開特別シンポジウムには100名ほどの一般市民の皆様にもお越しいただき、2日間にわたって500名以上の方に会場に足を運んでいただいた。

大会の主要テーマは、「社会的レジリエンスに資する人間工学」と設定した。開催時点から数えて7年前になる東日本大震災によって大きな変化を強いられた地方であることに加え、世界の国々が経験したことのない急激で継続的な人口減少を初めて経験する日本の中でも減少率が圧倒的に高い地方であることを考え、人間工学という学問を社会の変化に対応できるように位置づける大会としようと思案したものである。大会企画（一部の企画は

学会との共同企画) はすべてこのテーマに沿って考えた。主なイベントを以下に示す。

- (1) 特別シンポジウム 「“実践的な災害科学” から人間工学が学ぶべきこと・すべきこと」：東北大学災害科学国際研究所初代所長・平川新氏 (現宮城学院女子大学学長), 今村文彦氏 (現所長)。(司会：宮城学院女子大学・大橋智樹)

東日本大震災からのレジリエンスに“実践的な災害科学”という学問がどのようにかかわったかについていくつかのご紹介をいただいた。これらの事例から、Human Factors としての人間工学が、文系学問に位置づけられることが多い応用心理学を出自としてもつことを考えると、文理の融合によって災害科学という新たな学問を確立させたこの研究所の歩みは聴衆の方々の参考になったものと考えられる。

- (2) 特別講演 「災害復興と地域再生」兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・室崎益輝氏。(司会：(株)TEMS 研究所・北村正晴)。

防災や安全を狭く考えて、それだけを追求しては、無味乾燥な社会になってしまうし、安全に逆行する結果にさえなってしまう。安全を包括的に捉え総合的に追求しなければならず、生業や生態の回復や創造にも力を入れないといけない。そのことが、地域再生あるいは地域創生につながってゆくというご見解は、被災経験をもつすべての方の共感をえられるものと考えられる。

- (3) 学会・大会共同企画 「知のネットワークを生かす社会的レジリエンス」：榎本敬二氏 (中部電力 (株))、北村憲康氏 (東京海上日動リスクコンサルティング (株))、八木絵香氏 (大阪大学) (司会：東北大学・狩川大輔)。

各氏の紹介された知のネットワークは、いずれもより良い社会のために何かしらの貢献をしたいという個人の自発的な行動の受け皿として、あるいはそのような行動を促す「きっかけ」として機能していた。緩やかでインフォーマルなネットワークだからこそ果たせる社会的役割とその可能性が示唆されたシンポジウムであったと思う。

- (4) 学会企画・教育講演「人間工学研究で役立つ統計学」(名古屋市立大学・榎原毅氏), 学会企画・ワークショップ「卒研・修論テーマ交流会」(常磐大学・申紅仙氏, 早稲田大学・加藤麻樹氏, 芝浦工業大学・吉武良治氏)

- (5) 一般企画シンポジウム 6 件

- (6) 一般講演 27 セッション 171 件

- (7) 機器展示 10 社

- (8) 懇親会

場所：仙台国際ホテル (宮城県仙台市)

日時：6 月 2 日 (土) 19:00~21:00 参加者約 130 名

※本大会の開催報告については人間工学 54 巻 5 号に掲載されている。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 支部役員会

1) 定例役員会

日時：平成30年5月11日（金）16：00～18：00

場所：小樽商科大学札幌サテライト

議題 平成29年度北海道支部事業報告、平成29年度決算案並びに監査報告、平成30年度北海道支部事業計画
平成30年度北海道支部予算執行計画、平成30年度北海道支部大会及び総会の予定
平成31年度北海道支部大会及び総会の計画、その他

(2) 平成30年度北海道支部総会並びに大会

大会長：小林大二（千歳科学技術大学）

日時：平成30年9月15日（土）13：00～

場所：小樽商科大学札幌サテライト大講義室

1) 支部総会議題

議題 平成29年度北海道支部事業報告、平成29年度決算案並びに監査報告、平成30年度北海道支部事業計画
平成30年度北海道支部予算執行状況、平成31年度北海道支部大会及び総会の計画
その他

2) 支部大会

13：40～13：45 開会の辞 大会長：小林 大二（千歳科学技術大学）

13：45～15：15 一般演題 座長：平沢尚毅（小樽商科大学）

1. 手触りに異方性のあるボタンの有効性に関する研究／三浦才輝、南條頌貴、小林大二（千歳科学大）
2. 自動走行システムにおける安全性評価と認証に関する研究／山田敏弥、卓田郁也、平沢尚毅（小樽商大）
3. 人工知能におけるEthical issuesに対する基本原則の考察／卓田郁也、山田敏弥、平沢尚毅（小樽商大）
4. 利用品質メトリクスワークショップの紹介／平沢尚毅（小樽商大）

15：15～15：30 休憩

15：30～16：55 基調講演（PIE研究部会協賛）

心拍変動性スペクトル解析 —その手順と留意点— / 三宅 晋司（産業医科大学産業保健学部）

16：55～17：05 人間工学専門家認定機構からのお知らせ

17：05～17：10 閉会の辞 大会長：小林 大二（千歳科学技術大学）

【懇親会】18：00～ 北海道料理 こふじ

4-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

(1) 日本人間工学会第59回大会開催（※詳細は別項参照）

東北支部として大会の実行委員会を引き受け、支部役員会を中心に可能な限り幅広い県から実行委員を組織した。大会実行委員会の委員は次の通り。大橋智樹，狩川大輔，北村正晴，工藤剛実，笹原孝，高橋信，本田一明，吉田信彌，和田裕一（以上、宮城県），神田直弥，本多薫，本多ふく代，山口俊憲（以上、山形県），佐川貢一（青森県）。※県ごとに五十音順

(2) 支部役員会

本年度は全国大会の開催を支部の主たる活動とし、支部役員はすべて大会実行委員として大会を企画・運営した。単独の支部役員会の開催は1回にとどまったが、その他はメール会議を実施して、意見集約を行い支部行事の運営を進めた。

・支部役員会

- 1) 日時：2019年3月30日（土）13:00～14:20
- 2) 場所：東北大学工学部
- 3) 議事：全国大会開催結果について、2019年度事業計画について
- (3) 支部研究会等
 - ・支部研究会
 - 1) 日時：2019年3月30日（土）14:30～17:00
 - 2) 会場：東北大学工学部総合研究棟 1F・110 号室
 - 3) 演題：「良好事例分析から教訓を抽出する試み」
 - 4) 講演者：氏田 博士氏（（一社）日本原子力安全推進協会・特任調査役）
 - 5) 概要：レジリエンス工学の観点から、良好事例の分析を試みる。本講演では2種類の異なる方法論に基づき分析をした結果をお話いただくことで、良好事例分析の展開についてディスカッションをした。1. 福島第一、第二、女川、東海第二の4プラントサイトの対応を、レジリエンス工学あるいはリスクリテラシの観点から分析。この分析に基づき外的事象（津波、地震など）に対する深層防護の在り方について。2. (1)小惑星探査機「はやぶさ」の帰還、(2) USエアウェイズ1549便のハドソン川不時着、(3) アポロ13号の帰還、の3つ成功事例、(4) 関西電力美浜2号機蒸気発生器伝熱管損傷事故、(5) J R 福知山線列車脱線事故、(6) 信楽高原鉄道列車衝突事故、(7) 博多駅前道路陥没事故の4つの組織事故、計7例から、良好事例を抽出し、10の一般的な教訓を導出。
 - 6) 参加者：東北電力、日本原子力安全推進協会等から約20名の参加者を得た。

4-3. 関東支部

{支部長:矢口 博之}

- (1) 第 48 回関東支部大会・第 24 回卒業研究発表会
 - ・開催日:2018年12月15日(土)～16日(日)
 - ・会場: 神奈川県横浜キャンパス
 - ・大会長: 高野倉雅人先生
 - ・参加者数: 正会員 66 名, 非会員 15 名, 学生 106 名の計 187 名
 - ・一般演題: 9 セッション (34 件)、1 企画セッション (4 件)
 - ・卒業研究発表会: 10 セッション (39 件)
 - ・特別講演「急速に普及するドライブレコーダーと交通事故予防」
 - ・堀野定雄先生 (神奈川県横浜キャンパス)
 - ・その他: 「CPE 紹介: 『活かそう!』人間工学専門家資格」: 人間工学専門家認定機構、準専門家資格ポスターデザイン優秀作品表彰、「学生交流カフェⅡ～研究についてかたりませんか～」
 - ・懇親会 (会場: 神奈川県横浜キャンパス 19 号館ラックスホール、参加者: 38 名)
- (2) 支部委員会
 - ・開催日:2018年7月10日(火) 会場: 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
 - 2018年12月15日(土) 会場: 神奈川県横浜キャンパス
 - ・議事:2017年度事業報告案および決算案、2018年度事業計画案および予算案、2019年度(第49回)支部大会・第25回卒業研究発表会、支部規約改正他
- (3) 支部総会
 - ・開催日:2018年12月15日(土) 会場: 神奈川県横浜キャンパス
 - ・議事: 2017年度事業報告案および決算案、2018年度事業計画案および予算案、2019年度(第49回)支部大会・第25回卒業研究発表会 (2019年12月7日(土)～8日(日)(予定)、会場: 千葉県工業大学)、支部規約改正他
- (4) 講演会・見学会
 - ・日時: 2019年3月12日(火) 13:45～17:00
 - ・場所: 凸版印刷 NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル1階/2階

- ・見学内容：VR シアター、その他
- ・講演会：『年間 3000 万人の買い物情報と地図情報（ロケーション、位置情報、企業のデータなど）を活用したビッグデータマーケティング』、講師：亀掛川 篤 氏（凸版印刷メディア事業推進本部）
- ・参加者：29 名

(5) ニュースレターの発行：支部総会の案内(11 月)、見学会の案内(2 月)

4-4. 東海支部

{支部長：松岡 敏生}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 - ・ 開催日時：平成30年5月26日(土) 15:00-15:30
 - ・ 開催場所：名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト（名古屋市中村区）
- (2) 講演会の開催
 - ・ 開催日時：平成30年5月26日(土) 15:45-16:45
 - ・ 開催場所：名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト（名古屋市中村区）
 - ・ 演題： 「人と地球のいのちを守る」をコンセプトにしたモノづくり
 - ・ 演者： 株式会社モリタホールディングス 技術研究所 所長 坂本直久 氏
- (3) 支部役員会
 - ・ 第1回支部役員会 平成30年5月26日(土) 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト
 - ・ 第2回支部役員会 平成30年9月29日(土) 三重大学 地域イノベーション研究開発拠点
 - ・ 第3回支部役員会 平成31年3月9日(土) 名古屋工業大学
- (4) 日本人間工学会東海支部 2018 年研究大会の開催
 - ・ 開催日：平成30年10月20日(土)
 - ・ 開催場所：三重大学 地域イノベーション研究開発拠点（三重県津市）
 - ・ 大会長：三重大学大学院工学研究科 教授 池浦 良淳 先生
 - ・ 特別講演：「重力で歩き、重力で倒れる」
 - ・ 演者：名古屋工業大学 教授 佐野 明人 先生
 - ・ 若手人材支援企画：「ErgonomicThon ～ワークショップに参加して人間工学のオープンイノベーション手法を学ぼう～」
 - ・ オーガナイザー：榎原 毅先生（名古屋市立大学）・山田泰行先生（順天堂大学）・山田クリス孝介先生（慶應義塾大学）
 - ・ 概要：一般講演30題、参加者67名
- (5) 東海支部 特別企画講座
 - ・ 開催日時：平成30年4月3日(火) 17:00-19:30
 - ・ 開催場所：名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト（名古屋市中村区）
 - ・ 演題： 「心理生理学 ～ひとの生理反応から分かること～」
 - ・ 演者：産業医科大学産業保健学部教授／日本人間工学会PIE研究部会長 三宅 晋司 先生
- (6) 東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
 - ・ 第14回：「労働安全保健における疲労マネジメントの基礎知識：夜勤交代制勤務を中心に」
 - ・ 開催日時：平成30年5月24日(木) 16:30-19:30
 - ・ 開催場所：名古屋駅 オフィスパーク名駅プレミア会議室（名古屋市中村区）
 - ・ 講師：名古屋市立大学大学院 講師 榎原 毅 先生
 - ・ 第15回：「看護学領域における人間工学研究の活用」
 - ・ 開催日時：平成30年7月30日(月) 16:30-19:30
 - ・ 開催場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）18階会議室（名古屋市中村区）

- ・ 講師： 三重県立看護大学 教授 大平 肇子 先生

4-5. 関西支部

{支部長:大須賀 美恵子}

(1) 企画・行事等

1) 2018年度関西支部見学会（支部大会のプレ企画として実施）

開催日：2018年12月 7日（金）

場 所：滋賀医科大学 メディカル・ミュージアム

参加者：10名

内 容：・メディカル・ミュージアムの解説付き見学

- ・セミナー「機器操作に関わる上肢の機能を解剖学見地から解説する」
- ・表面筋電図測定の実演と解説

2) 平成30年度日本人間工学会関西支部大会

開催日：2018年12月 8日（土）

場 所：ピアザ淡海（大津市）

大会長：辻村 裕次 先生（滋賀医科大学）

内 容：・一般講演 32件（8セッション）

- ・企画講演 5件（1セッション）
- ・特別講演「人間工学を活用した産業保健」
埴田 和史 先生（滋賀医科大学 准教授）
- ・人間工学専門家認定機構の活動紹介「目指せ！認定人間工学専門家」
水本 徹 氏（株式会社 島津製作所）
- ・懇親会（ホテルピアザびわ湖（ピアザ淡海6階））

※演題合計39件，参加者数100名

※大会および見学会については人間工学 Vol. 55, No. 1「平成30年度日本人間工学会関西支部大会開催報告」に掲載

3) 2018年度 新企画【学生と企業若手の出会いの場をつくろう】

ワークショップ「未来の住まいの提案」

開催日：2019年 3月 2日（土）

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

共 催：大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部

話題提供者：・西田 佳史 氏（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）

テーマ「人生100年時代に向けた生活機能が変化する人の安全」

- ・菅野 泰史 氏（大和ハウス工業株式会社 未来共創センター）

テーマ「これからの暮らしを支える未来の住まいとは」

- ・八木 政彦 氏（大阪ガス株式会社 リビング事業部）

テーマ「IoT ガス機器の開発と今後の展望」

4) 2018年度 春季講演会（支部総会と併催）

開催日：2019年 3月23日（土）14:15～16:30

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス セミナー室203

共 催：PIE 研究部会（日本人間工学会研究部会）

ビッグデータ人間工学研究部会（日本人間工学会研究部会）

大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部

講 演：【関西支部担当】

「伝統芸能（文楽+能）の匠の技から先端ロボットに心をデザインする」
中川 志信 先生（大阪芸術大学アートサイエンス学科教授）

【PIE 研究部会担当】

「眼球停留関連電位による視覚的注意の計測」

八木 昭宏 先生（関西学院大学名誉教授，応用心理科学研究センター(CAPS)客員研究員）

【ビッグデータ人間工学研究部会担当】

「楽天技術研究所が取り組む「個別化時代」への挑戦と，Creative AI への道」

森 正弥 氏（楽天技術研究所 所長）

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：2018年 6月14日（金）

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

2) 第1回評議員会・役員会合同会議（支部大会と併催）

開催日：2018年12月 8日（土）

場 所：ピアザ淡海（大津市）

3) 2019～2020年度評議員選挙

投票用紙発送：2018年12月26日（水）

投票締切：2019年 1月18日（金） ※支部事務局必着

開票作業：2019年 1月28日（月）（場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス）

4) 第2回幹事会 ※関西支部規則に則り，例年の「第3回企画幹事会」より呼称を改名

開催日：2019年 2月 5日（火）

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

5) 幹事会メール審議

議決日：2019年 3月 3日（日）

議 題：次年度企画幹事の選考

6) 第2回評議員会メール審議

議決日：2019年 3月 5日（火）

議 題：企画幹事会の報告した優秀発表賞の選考方法の審議。（この承認に基づき優秀発表賞を決定。）

7) 2018年度会計監査

開催日：2019年 3月19日（月）

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

8) 第2回評議員会・役員会合同会議

開催日：2019年 3月23日（土）11：50～

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

9) 2018年度関西支部総会

開催日：2019年 3月23日（土）13：00～

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

出席者：27名（これに加え，議長への議決権委任者62名）

10) 平成30年度支部大会優秀発表表彰式（当該年度支部大会発表の学生・若手研究者を受賞対象とする）

開催日：2019年 3月23日（土）14：00～

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス

受賞者：・「触情報の視覚化特性を用いた刺激呈示方法の検討」

発表者：泉谷 祐治（関西大学）

・「造血幹細胞移植患者のためのメンタルケアシステムのユーザ調査」

発表者：上甲 志歩（大阪工業大学）

- ・「ワーキングメモリ能力に対する快適歩行運動の有効性」
発表者：田村 裕人（立命館大学）
- ・「認知的情報処理における注意配分特性とメンタルモデル構築の関係性についての研究」
発表者：鉢嶺 悠美（京都女子大学）

（50音順，敬称略）※8～10は同日開催

4-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回 2018年12月8日（土）岡山大学工学部5号館104室

第2回 2019年3月2日（土）尾道市しまなみ交流館会議室1

(2) 支部総会開催

2018年12月8日（土）岡山大学工学部5号館第15講義室

(3) 第51回日本人間工学会中国・四国支部大会

2018年12月8日（土）岡山大学工学部

大会長：村田厚生 教授，土井俊央 助教（参加者：49名）

一般講演 30件

(4) 支部講演会開催

開催日：2018年12月8日（土），場所：岡山大学工学部5号館第15講義室

題目：「活かそう，人間工学専門家」

講師：福住伸一氏

（人間工学専門家認定機構長・理化学研究所 AIP センター研究員）

(5) 2018年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員（石原恵子支部理事（広島国際大学），田口豊郁支部理事（川崎医療福祉大学），横山詔常支部理事（広島県立総合技術研究所））による審査を実施した結果，以下の論文3本が優秀論文として表彰された。

論文番号：107

題目：視線入力における座標データを使用した予測法の有効性

著者：陰山和司（岡山大学大学院） 他2名

論文番号：305

題目：網膜血管の動脈硬化進行度の定量評価と経年変化

著者：岡見雄貴（山口大学大学院） 他5名

論文番号：405

題目：自動運転時におけるシステム安全度の表示が運転行動に与える効果

著者：川谷健太（香川大学） 他3名

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長：村木 里志}

(1) 2018年度支部代議員会

1) 月 日：平成30年11月9日（金）

2) 会 場：ホテルセントヒル長崎（長崎県長崎市）

3) 議 題

1. 2017年度会計報告

- ・2017年度会計報告が報告され、承認された

2. 2018 年度予算案と活動計画

- ・2018 年度予算案と活動計画について村木支部長から説明がなされ、承認された
- ・支部の活性化のため、支部会員紹介の冊子を発行する予定

3. 2019 年度の活動計画（予算案含む）

- ・2019 年度予算案と活動計画について村木支部長から説明がなされ、承認された

4. 「九州人間工学」の電子化

- ・本年から九州人間工学は印刷せずに電子ファイル（PDF）として支部のウェブサイト上で公開することとなった
- ・発表演題の公開可否については事前に著者へ確認する

5. その他

- ・来年度以降の支部大会について

学会本部において、支部大会の開催のあり方が検討されている。学会本部による方針が決定次第、開催時期等について協議する

(2)2018 年度支部総会

- 1) 月 日:平成 30 年 11 月 9 日 (金)
- 2) 会 場:ホテルセントヒル長崎 (長崎県長崎市)
- 3) 議 題
 - ・平成 30 年度活動報告と決算
 - ・平成 31 年度活動計画と予算案
 - ・平成 31 年度第 40 回大会について
 - ・その他

(3)第 39 回九州・沖縄支部大会

- 1) 月 日:平成 30 年 11 月 9 日 (金)
- 2) 会 場: ホテルセントヒル長崎 (長崎県長崎市)
- 3) 大会長: 辺見一男 (長崎県立大学情報システム学部)
- 4) 発表演題数: 特別講演 1 件, トピック 2 件, 一般講演 10 件

参加者: 21 名

- ・特別講演

「古写真に見る工学の伝来: 幕末明治長崎の産業革命のなかで」

姫野順一 (長崎学院長崎外国語大学特任教授 新長崎学研究センター長)

- ・最優秀発表賞

「道の駅における農林水産物の利用者数への影響の分析」西村詩央里 (長崎県立大学情報システム学部)

- ・優秀発表賞

「音を付与した擬似窓の効用について」久留亜沙美 (同志社大学理工学部)

- ・懇親会: カピタン (ホテルセントヒル長崎内レストラン) (長崎県長崎市)

(4)「九州人間工学 第 39 号」の発行と九州支部サイトでの公開

(5)支部会員紹介冊子の作成

5. 研究部会活動

5-1. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:新家 敦}

(1)活動目的

ビッグデータ解析の前提となるデータの収集手法に「IoT (モノのインターネット)」が普及してきている。IoT はこれまで人間工学研究実践活動のボトルネックであったデータ獲得手段に革新を起こすと思われる。このため活動テーマを「IoT時代の人間工学」とした。

また、第1期の活動内容をまとめ、学会誌に報告する。

(2)手段・方法

1) 幹事会の運営。

2) 勉強会の開催。本年度は勉強会・講演会を実施した。

- ・第6回ビッグデータ人間工学勉強会 (関西)

日時 2018年11月12日 15:00 ~ 18:00

場所 島津製作所 本社・三条工場 (京都市中京区) 研修センター 43号

テーマ 人間工学領域におけるスマホセンサーを用いたビッグデータ解析

講演者 榎原 毅 (名古屋市立大学)

参加者 21名

- ・第1回ビッグデータ人間工学講演会

日時 2019年3月13日 15:00 ~ 18:15

場所 芝浦工業大学 芝浦キャンパス(東京・芝浦) 307教室

特別講演 「人間に学ぶ」センシング技術：知能化の意味と効用

小林 彬 (次世代センサ協議会 会長)

講演1 新しいセンシングデバイスがもたらすビルの新しい価値創造

野田 肇 (東芝インフラシステムズ)

講演2 位置情報ビッグデータの活用の取り組みのご紹介：人々は、どこから来て、どこに行くのか？

出口 貴嗣 (ゼンリンデータコム)

参加者 31名

3) 関西支部 春季講演会での講演を実施した。

- ・日本人間工学会 関西支部 春季講演会

日時 2019年3月23日 14:15~17:40

場所 大阪工業大学 梅田キャンパス セミナー室 203

当部会は3題目の担当であった。

春季講演会3 楽天技術研究所が取り組む「個別化時代」への挑戦と、Creative AI への道

森 正弥 (楽天技術研究所 所長)

4) 第1期活動成果のまとめ。

本研究部会は、日本人間工学会設立50周年を記念して設立された。ビッグデータは、これからの人間工学の研究・実践の領域をフィールドに大きく広げる可能性を持つものとして調査・研究に取り組んできた。第1期に開催したシンポジウム・勉強会・講演会について資料化を行っている。

(3)成果

勉強会では、第5回の勉強会に引き続き榎原 毅先生にご講演いただいた。研究事例の紹介では「身体不活動」について紹介された。スマートフォンのセンサーを用いた客観的なデータで身体の活動・不活動状態を取得・解析しようとする試みである。実際のデータ取得に関する知見を披露された。

講演会はセンサー関係の話題を3題集めたものであった。

小林先生は「人間に学ぶセンサー」と題して講演された。人間のセンサーの多くは物理的に脳に近く配置されていることが挙げられ、これからのセンサーは得られた値に人間活動の指標として出力するために「知能」を組み込む必要性などが示唆された。

野田先生は映像のみを入力とするセンサーでどこまで人の行動がわかるかを示された。生映像を画像センサー機器内で処理し、得られた指標データを外部出力するものである。赤外線センサーによる人間の感知では、動きが少ない場合にデータを取得できなかったが、画像認識を行うことでこのような場合でも対応できるとした。

出口先生は、スマートフォンのセンサーを用いた「人の流れ」の解析について説明された。

春季講演会では楽天技術研究所の森正弥所長にご講演いただいた。同社のフリーマーケットサービスでは、出品者が考えたタグ付けよりも、アップロードされた商品写真からAIが自動認識した分類の方が精度が高く、よって購入率が上がったことなどが紹介された。

本研究部会は、2014年の全国大会から2019年3月の春季講演会まで、多様な形態で活動を行ってきた。活動の中で得られた知見をより多くの学会員に共有すべく学会誌への報告を検討中である。当初の予定よりもより多くの外部の識者の知見を盛り込むことになり、現時点では報告書は未完成である。引き続き資料の整理に努めたい。

5-2. 安全人間工学研究部会

{部会長:鳥居塚 崇}

(1)研究部会の会員と、研究会の参加者を結ぶメーリングリストを用いた情報発信を行っている。鳥居塚(日大)ほか、中西(慶應義塾大)、吉村(海技研)、山出(社会安全研究所)、北村(JR総合研究所)が幹事メンバー。安全人間工学委員会と常に情報を交換・共有し、安全人間工学委員会(首藤由紀委員長)の委員も部会運営に協力した。

(2)平成30年度は4回の研究会を開催(主催・共催を含む)した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。

1) 2018年度第1回研究会(産業組織心理学会作業部門研究会および認知心理学会安全心理学部会と共催)

日時:2018年5月19日(土)14:00~16:30

場所:日本大学経済学部 7号館2階講堂

テーマ:「歩きスマホをどのように抑制するか」

企画・司会:芳賀繁(社会安全研究所)

話題提供者1:北折 充隆(金城学院大学・人間科学部)

話題1:電車内スマホ利用の迷惑学

話題提供者2:森 久美子(関西学院大学・社会学部)

話題2:潜在的・顕在的恐怖に訴求する歩きスマホ抑制コミュニケーションの検討

話題提供者3:大山 和政(東日本旅客鉄道(株)・安全研究所)

話題3:アプリを用いた歩きスマホ計測によるコミュニケーション効果の検証

討論:パネルディスカッション

企画趣旨:「歩きスマホ」が歩行者の注意を阻害し、本人および周囲の人の事故リスクを増大することは、多くの実験によって明らかにされている。それでは、この行為をどのようにして抑制できるのか、とくに鉄道の電車内および駅における不安全行為であり、かつ、迷惑行為でもある「歩きスマホ」を効果的に抑制する方策について、心理学の理論と、調査研究およびフィールド実験に基づいて議論した。

2) 2018年度第2回研究会(日本人間工学会全国大会におけるシンポジウム)

日時:2018年6月3日(日)

場所:宮城女子大学

テーマ:「疲労リスクマネジメントの考え方と実践」

企画・司会:鳥居塚崇(日本大学)

話題提供者1:小松原明哲(早稲田大学)

話題1:産業疲労管理の新たな課題

話題提供者2:高橋健(日本貨物航空)

話題 2：航空業界における疲労リスク管理

話題提供者 3：榎原毅（名古屋市立大）

話題 3：産業安全保健における疲労リスクマネジメントー夜勤交代制勤務を中心に

3) 2018 年度第 3 回研究会（安全工学シンポジウム企画セッション）

日時：2018 年 7 月 5 日（木）13:40～15:40

場所：日本学術会議（東京都港区六本木 7-22-34）第 3 室 6 階 6-C

テーマ：「Safety-2: 成功事例を分析する実践的取り組み」

企画：佐相邦英（電力中央研究所），芳賀繁（社会安全研究所）

話題提供者 1：重森雅嘉（静岡英和学院大学）

話題 1：道路メンテナンス作業グループの安全成功事例を支える自主的安全リーダー

話題提供者 2：大場恭子（日本原子力研究開発機構）

話題 2：失敗事例の中の“良好”を探す

話題提供者 3：鈴木 明（浜松医科大学医学部附属病院 医療安全管理室）

話題 3：緊急帝王切開手術の振り返りと学び

話題提供者 4：芳賀 繁（社会安全研究所）

話題 4：ゲーミングを使ったジレンマ状況を考える研修と研修効果の測定

4) 関連する研究会への協力（早稲田大学創造理工学部人間工学研究室および HQL 主催の研究会への協力）

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 62 号館 1 階会議室

テーマ：「コミュニケーション：気持ちを伝える」

企画・司会：小松原明哲（早稲田大学）

話題提供者 1：坂口由之（吉田秀雄記念事業財団アドミュージアム東京 学芸員）

話題 1：「江戸に探る広告のルーツ」

話題提供者 2：田中培仁（富士通デザイン）

話題 2：「デジタル活用による人の心を動かす体験や価値のデザイン」

話題提供者 3：佐藤雄介（電通 CM プランナー／コピーライター）

話題 3：「広告クリエイティブの今」

趣旨：プロダクト（モノやサービス）はそれを作る人だけでは成立しない。それを享受する人がいて成立するもの。その両者をつなぐものがインタフェース。プロダクトそれ自身がインタフェースであり、またその特徴を要約する広告などの媒体もインタフェース。そのインタフェースは、作り手の使い手を思いやる気持ちや願い、メッセージ＝「気持ち」が託されているのではないか・・・そのようなインタフェースを如何にデザインしていくのか？ 今回の人間生活工学ワークショップでは、「コミュニケーション：気持ちを伝える」というテーマのもと、識者や第一線でご活躍の皆様からご講演をいただき、参加者とともにその意味での「インタフェース」ということを考える。

5-3. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

(1) 活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部として設立した。最近、活動が低下している PIE を日本発で盛り上げるとともに、国内の活動として、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を行う。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓蒙活動を行う。

(2) 方法・手段

1) 国際学会においてセッション・シンポジウムを開催する。

2) 日本人間工学会大会および支部大会等で企画セッション・講演会・ワークショップを開催する。

(3) 成果

1) 国際活動

IEA2018 (フィレンツェ 8/28) においてシンポジウム Psychophysiology in Ergonomics を開催し、部会員 6 名と IEA の TC である PIE (部会の本体) メンバーから 1 名が発表した。

Psychophysiology in Ergonomics

Chair Person: Shinji Miyake

- ・Affective evaluation of a VR animation by physiological indexes calculated from ECGs (Ito Kodai)
- ・Aging effect on physiological responses and task performance during mental task (Kuraoka Hiroyuki)
- ・Development of chairs for nonintrusive measurement of heartrate and respiration and its application (Ohsuga Mieko)
- ・Development of intention inference algorithm based on EMG signals at judging directional of arrow cues (Takahashi Yuzo)
- ・Evaluation of muscle load of hand and forearm during operation of cross-shaped switch by thumb (Ishibashi Motonori)
- ・Relationships between autonomic nervous system indices derived from ECG signals (Kurosaka Chie)
- ・Shared Ventilatory Drive as a Measure of Social Physiological Compliance during Team Decision making (Henning Robert)

2) 国内活動

- ・東海支部主催の特別企画講座にて講演「三宅晋司 (研究部会長) : 心理生理学 ～ひとの生理反応から分かること～」を行った (4/3). 参加 36 名
- ・日本人間工学会第 59 回大会 (仙台) において、「PIE 研究における問題点と Good Practice 事例 -ラウンドテーブルディスカッション-」を開催し、2 件の基調講演 (石橋基範 (日本大学生産工学部) : 自動運転の研究への脳波応用, 中川千鶴 (鉄道技術総合研究所) : 異常時の心理的動揺 (思考停止) を生理指標で検出) に続いてフロアとのディスカッションを行った (6/2). 参加約 40 名
- ・北海道支部大会において、特別講演「三宅晋司 (研究部会長) : 心拍変動性スペクトル解析—その手順と留意点—」を行った (9/15).
- ・関西支部総会に併せて、ビッグデータ人間工学研究部会と合同の講演会を開催した (八木昭宏 (関西学院大学総合心理科学科 名誉教授, 応用心理科学研究センター(CAPS) 客員研究員) : 眼球停留関連電位による視覚的注意の計測) (3/23). 参加 51 名

平成 31 年 3 月 31 日現在 部会員数 62 名 (うち、日本人間工学会非会員 27 名)。

5-4. 衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

(1) 活動テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動してきた。2018 年度は、8 月にアパレル縫製工場と染め工房の見学を行い、2 月に衣料品のフェアトレードに関する講演会を実施した。

(2) 活動内容

役員会 3 回、研究例会 2 回を開催した。

- 1) 第 1 回役員会 : 平成 30 年 6 月 9 日 (土) 於 文化学園大学
- 2) 第 2 回役員会 : 平成 30 年 8 月 31 日 (金) 於 新潟県糸魚川市 (研究例会先)
- 3) 第 3 回役員会 : 平成 31 年 2 月 28 日 (木) 於 文化学園大学

4) 第1回研究例会（見学会）

- ・開催日：平成30年8月31日（金） 於 新潟県糸魚川市
- ・見学先：(株) 美装いがらし：

- ① 縫製工場にて、生産内容の説明と見学、取引先商品ついでの説明、(株) 美装いがらし自社ブランド ao における天然素材商品の生産内容の説明と見学： 自社生産・自動化生産により、短期間で安心・高品質を実現している婦人向け高級衣料品の工場生産現場を見学した。また天然素材を用いた甘襴りの織物であるガーゼを用いた自社ブランド ao でのガーゼ服の生産過程の見学をした。日本ならではの高度な技術を用いた環境と人にやさしい製品の開発現場を視察し、グリーンファッションと技術の関連について考える機会となった。
- ② 染め工房にて、藍染めの説明と見学： 自社で育てた藍を用いた染め工房において、藍を育て製品を染める過程を見学した。

5) 第2回研究例会（講演会）

- ・開催日：平成31年2月28日（木） 於 文化学園大学
- ・講演：NGO グローバル・ヴィレッジ 代表 胤森なお子氏
- ・テーマ：「衣料品のフェアトレードと生産者の現状」

人と地球を守るフェアトレードファッションという演題で、NGO グローバル・ヴィレッジより派生したフェアトレード専門ブランドであるピープルツリーの実践を例に、フェアトレードが求められる背景、フェアトレードの歴史、フェアトレードによるモノづくりの実例、啓蒙活動についての講演があった。この講演をキーに、部会員と講師による学校現場での取り組みや課題について活発な意見交換を行った。消費科学、教育の立場よりグリーンファッションを捉える機会となった。

5-5. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討した。

(2) 方法・手段

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 例会（公開講座）

日時：2018年6月22日（金） 10：00-16：30

場所：野村不動産天王洲ビル 2F

参加者数：126名

【講演】

- (1) 演題 「飛行データに基づくパイロットの行動とワークロードの解析：OPSAMS」
講演者 野田 文夫 氏 (JAXA 航空技術部門 客員研究員)
- (2) 演題 「日本及び世界におけるヘリコプタ安全活動の紹介」
講演者 鷺田 修 氏 (日本ヘリコプタ協会常任理事 JHST 担当)
- (3) 演題 「ヘリコプタ パイロット視覚情報支援技術の研究：SAVERH」
講演者 船引 浩平 氏 (JAXA 航空技術部門 研究領域主幹)
- (4) 演題 「鉄道におけるヒューマンファクターに基づく安全研究」
講演者 和田 一成 氏 (西日本旅客鉄道 (株) 安全研究所 主任研究員)
- (5) 演題 「医療におけるヒューマンエラー対策とレジリエンス」

講演者 長谷川 剛 氏 (上尾中央総合病院 院長補佐 情報管理部部長)

2)施設見学会の実施

2018 年度施設見学会を以下の要領で実施した。

日時：2019 年 1 月 30 日(水) 10:00-12:00

場所：日本航空 第2 テクニカルセンター 非常救難訓練センター

内容：地上スタッフ対象「緊急脱出研修」概要説明

「緊急脱出研修」座学体験

非常救難訓練センターの見学

質疑応答

参加者数：24 名

3)委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は委員会を 2 回開催した。

委員会の概要は以下のとおりである。

・第 67 回委員会 (2018 年度第 1 回 委員会)

日時：2018 年 12 月 7 日 (金) 13:00-14:30

場所：(公財) 航空輸送技術研究センター (ATEC) 会議室

議題：

- ・本年度活動状況
- ・第 100 回例会 (公開講座)
- ・第 101 回例会 (公開講座)
- ・現時点での収支報告
- ・見学会について
- ・今後の委員会・幹事会の予定

・第 68 回委員会 (2018 年度第 2 回 委員会)

日時：2019 年 3 月 7 日 (木) 16:00-17:30

場所：(公財) 航空輸送技術研究センター (ATEC) 会議室

議題：

- ・見学会報告
- ・第 101 回例会 (公開講座) について
- ・2018 年度会計報告
- ・2018 年度事業報告
- ・2019 年度事業計画
- ・第 101 回例会の準備
- ・今後の予定 / その他 (事務局交代に関して)

その他、委員会および例会の活動準備等のため、2018 年度は幹事会を 4 回開催した。

4)ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会の申し込みはホームページから行えるようになっており、広く周知できることで、今年度の活動においては非会員からの参加申し込みも多数あった。

(3)成果及び展望

本年度の例会では「飛行データに基づくパイロットの行動とワークロードの解析：OPSAMS」「日本及び世界におけるヘリコプタ安全活動の紹介」「ヘリコプタ パイロット視覚情報支援技術の研究：SAVERH」「鉄道におけるヒューマンファクターに基づく安全研究」「医療におけるヒューマンエラー対策とレジリエンス」の講演を通して、他分野を含む幅広いヒューマンファクターに関する知見を参加者間で共有し、理解を深めることができた。

また、施設見学会では日本航空非常救難訓練センターにて「緊急脱出研修」座学体験や施設見学を実施した。航空の安全を堅持するための教育・訓練の重要性を座学体験・施設見学を通して改めて関係者で再認識・共有できたものとする。

今後も、他分野を含めた幅広いヒューマンファクターに関する研究に取り組んでいく。

5-6. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。2018年度は「Future Experience」～ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法～を活動テーマに、フューチャーエクスペリエンスの実践を中心に進め、三方よしのビジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：119名(正会員69名、学生会員50名、2019年3月16日現在)
- ・活動概要：2018年度はフォーラム2回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、他に、幹事会3回、総会1回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 第4回 フューチャーエクスペリエンス (FX) フォーラム+X デザイン学校公開講座開催(2018年6月14日)

於：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 参加者：69名

講演2件、パネルディスカッションを実施。

◆講演

- ・「意味のイノベーションと社会」
安西洋之 (モバイルクルーズ (株) 代表)
- ・「社会を考慮したアプローチ」
山崎和彦 (Xデザイン学校)

◆パネルディスカッション

- ・安西洋之 (モバイルクルーズ)
- ・山崎和彦 (Xデザイン学校)
- ・西内信之 (首都大学東京)

2) 2018年度コンセプト事例発表会開催(2018年8月31日)

於：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 参加者：47名

特別講演1件、口頭発表8件、ポスター展示14件を実施。

◆特別講演

- ・「上肢障害者のコミュニティ作りとユーザー参加型デザインの取り組み」
今井剛 (特定非営利活動法人 MissionARMJapan/理事)

◆口頭発表

- ・「長期利用を目的とした非タスク型対話システムの研究」
中山立輝、山崎和彦 (千葉工業大学)

- ・「持ちやすいピンバイスの検討」
大門壮太郎、細田彰一（日本工業大学）
 - ・「仕掛け」で揺さぶるまちの可能性—造形大生の取り組みから」
由井真波、加藤賢治（成安造形大学）
 - ・「ゲームキャラクターによる人間の共感バイアスを利用した消費行動コントロールの研究」
森山明宏（ユーリカ株式会社）
 - ・「ファッションアイテムとして魅せる義手の検討」
岩山翔大、細田彰一（日本工業大学）
 - ・「ブランド体験を考慮したスタートアップのデザインアプローチの提案」
田中亮（千葉工業大学）
 - ・「インタフェース：初学者向けインタフェースデザイン・ワークショップの開催」
松下寛、内山晶葉、宇野津甘美、工藤洋太、丹野一也（芝浦工業大学）
 - ・「子供の学びの為のリフレクションの研究」
郷津竜帆、山崎和彦（千葉工業大学）
- 3) 見学会開催(2018年10月24日)
見学先: トヨタL&Fカスタマーズセンター東京 参加者: 23名
テーマ: 「物流美 — 人と機械と情報を調和させた未来の物流を体感する」
- 4) 第5回フューチャーエクスペリエンス・フォーラム (FXフォーラム) 開催 (2018年12月7日)
於: 島津製作所 参加者: 85名
講演8件、ディスカッションを実施。
テーマ: 「UXの現在と未来」
- ◆カレントエクスペリエンス
- ・「みらいの兆しの見つけ方」
辻村 和正（インフォバーンデザインラボ デザインディレクター）
 - ・「プロトタイプングラボのデザイン-softdevice LAB.での実践事例を通して-」
野々山 正章（softdevice inc.）
 - ・「調査データの有無で作成されたカスタマージャーニーマップの比較」
山口 優（オムロン エキスパートリンク株式会社 ユーザビリティセンター）
 - ・「オフィス機器における顧客価値向上に向けて ~オフィス機器の特性を考慮したHCD手法の紹介~」
小江 啓司（JBMIA HCD専門委員会 副委員長）
- ◆フューチャーエクスペリエンス
- ・「意味のイノベーションと社会」
八重樫 文（立命館大学・教授）
 - ・「社会のためのデザイン活動事例-1」
梶川 伸二（インターソシア合同会社代表）
 - ・「社会のためのデザイン活動事例-2」
佐藤 啓一郎（Filament 取締役 CXO）
 - ・「社会を考慮したアプローチ」
山崎 和彦（X デザイン学校共同代表）
- ◆ディスカッション
- 5) 2018年度合宿研究会 (2019年3月15日、16日)
於: 湘南国際村センター、参加者: 22名
事例発表3件、招待講演1件。ワークショップを実施。
テーマ: 「フューチャーエクスペリエンス (FX) 実践ワークショップ」 ~ビジョン構築方法~
- ◆方法論/事例発表

- ・「FX デザインのためのエクスペリエンスマップの利用と評価」
笠松慶子、西内信之（首都大学東京）
 - ・「FX を目指した段階的開発のための PXD 手法の紹介」
相野谷威雄（首都大学東京 serBOTinQ）
 - ・「FX デザインの事例、社会環境と食文化を考慮したアプローチ」
山崎和彦、山下杏子（千葉工業大学）
 - ◆招待講演：「先進的な生活者（トライブ）から描く未来の生活者ビジョン」
講師：宮井弘之（株式会社SEEDATA代表取締役）
 - ◆ワークショップ：ビジョンの作り方
- 6) 2018 年度部会総会開催（2019 年 3 月 16 日）
於：湘南国際村センター、参加者：20 名
2018 年度活動報告及び決算、2019 年度活動計画及び予算の審議、承認
- 7) WG 活動
FX_WG 活動中（担当：上田、笠松、郷、高橋、西内、早川、細田、山崎）
広報WG活動中（担当：早川、高橋）
FX 教育WG(担当:安藤、笠松、西内、細田、吉武)
- 8) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用を実施。
- (3) 成果と展望：
- ・社会、環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス(FX)の概念を提唱し、ビジョン構築の手法を考察し、FX の実践的な手法について検討を行ってきた。
 - ・今後は、FX のために進化させた Experience Vision の手法を教育の場に広げ、デザインやビジネス教育の現場でどのように指導していくかの検討を進めていきたい。

5-7. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

(1) 活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2) 手段・方法

1) 第1回研究会を7月21日(土)に首都大学東京秋葉原キャンパスにて開催した。

・中村 浩（北星学園大学）

「林の影の運動による色の捕捉錯視は仮現運動と言えるか？—そのバリエーションを基にした影ヌン道の考察—」

2) 第2回研究会を12月18日(火)に首都大学東京日野キャンパスにて、首都大学東京リサーチコア serBOTinQ と共催した。

・ヤエム ヴィボル 先生（首都大学東京・助教）

「触覚再現とその応用」

・池井 寧 先生（首都大学東京・教授、serBOTinQ メンバー）

「VR と超臨場感」

3) 第3回研究会を1月25日(金)に首都大学東京日野キャンパスにて、首都大学東京リサーチコア serBOTinQ と共催した。

・北川 智利 先生（立命館大学・教授、吉賀心理学研究所・代表）

「外界知覚・認知と自己（身体および心理的な特性・状態）の相互作用」

・久保田 直行 先生（首都大学東京・教授、serBOTinQ メンバー）

「ロボットと知覚」

4) 第27回システム大会の感性情報処理・官能評価セッション（I）;2019年3月7日（木）において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。なお、詳細はシステム大会部会より報告。

(3)成果

1)第1回研究会には8名の参加があり、その多くは心理関係の研究者であった。

参加者のうち、学生会員1名。非会員の大学院生1名を含む先生方で、中村浩先生がお考えになる、“色の捕捉錯視”と“仮現運動”との関係に関する新たな解釈をわかりやすくご講演いただいた後に、異なる視点からの指摘を含め活発な検討がなされた。

最後に、脳内での処理時間の多寡で、錯視の種類が切り替わるのではないかと、との考えに従うと、これまで注目されてこなかった報告の意味が再発見できる可能性を示唆していただいた。

2)第2回研究会には、首都大学東京リサーチコア serBOTinQ との共同開催で学会員と非会員で40名の参加を得て研究会を行った。

ヤェム先生による触覚における錯覚研究のご紹介、池井先生によるVR技術を活用した、五感ディスプレイの紹介、テレプレゼンス体験に関する研究についてご講演いただいた。

ご講演後には、パネルディスカッションを行い、各先生の研究へのモチベーション、技術活用などに関して活発な議論がなされた。

3) 第3回研究会には、首都大学東京リサーチコア serBOTinQ との共同開催で学会員と非会員で61名の参加を得て研究会を行った。

北川先生からは、身体近傍で生じる感覚事象として、錯覚の研究についてご紹介いただき、さらに感情特性や状態そして最近注目されているマインドフルネスと知覚の関係についても紹介し、瞑想体験を行った。

久保田先生からは、AIの技術が発達してきている中で、人間が何を目指しているかについてご講演いただいた。人間へ感覚情報を提示する際やロボットが人間と関わる際に、人間の知覚の身体性や心理的特性・状態をどのように扱うべきか、などについて議論を深められた。

(4)問題点と展望

本年度も、昨年度以上に日本（それ以外の国も）では、大企業を中心として異業種の専門家を一堂に会して（一つの職場に集めて）、新たな価値創造を試みる試みが多くなされていることが、ご講演を通して実感として理解できた。これは、少なくとも日本におけるモノづくりの品質において、工学が関わる“当たり前の品質”とともに、新たに個人の主観に深く訴える“感性価値”がとても重視されていることも、大きな要因の一つと考えることができると思われる。（一方で、ここ数年、次々に明らかになってきた品質の偽装等の企業の現状は、価値・品質以前の問題に思えてならない。）

以上の背景に基づいて、本年度も研究会・公開講座や勉強会等、それぞれ有益な成果を上げたと考えている。今後も引き続き、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究に関する、発表・（指導的な指摘も含めた）議論ができる場を提供して行きたい。

今後は、部会長を首都大学東京の笠松慶子教授に交代して、引き続き感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究の活性化を留意して事業を行ってゆく。

—

*serBOTinQ（サービスロボットのインキュベーションハブプロジェクト）

<http://tmu2020.jp/campus-info/hino/380/>

5-8. 看護人間工学部会

{部会長：水戸 優子}

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

1) 第26回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の企画

平成30年10月27日(土)に、武庫川女子大学看護学部(兵庫県西宮市)において徳重あつ子大会長主催にて開催した。一般演題、および特別講演「色彩と看護」阿曾洋子先生(武庫川女子大学学部長)、「新しい学会に対する熱い思い」平田雅子(元神戸市看護大学短期大学部教授)、特別企画リレー講演「看護人間工学分野の将来展望」として、野呂影勇先生(早稲田大学教授)、小川鑛一先生(元東京電機大学教授)、山崎信寿先生(慶應義塾大学名誉教授)より講演をいただく。

2) 第26回看護人間工学部会総会にて、本部会の今後の在り方について議論し決定した。

3) 看護人間工学研究誌第19巻を発行(平成31年3月)した。

4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第60回大会への参加を広くよびかける。

(3) 成果

1) 第26回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

公開研究会・講演会への参加者は、部会員、非会員を合わせて82名であった。

一般演題12題の研究発表があった。学びの多い、特別講演、特別企画リレー講演が行われ、いずれも活発な意見交換が行われた。

2) 部会総会にて、本部会の存続について検討し、2019年3月31日をもって閉会することが満場一致で決定した。

あわせて、看護人間工学会(仮称)を成立のために別組織にて準備を開始することが決定した。

3) 看護人間工学研究誌第19巻を発行(平成31年3月)し、部会員に送付した。

寄稿11編、原著2編、研究報告1編、第26回看護人間工学部会抄録を掲載した。

(4) 展望

1) 平成31年3月31日をもって、看護人間工学部会は閉会した。一般社団法人日本人間工学会・看護人間工学部会の目的、テーマは、令和元年5月1日に設立する看護人間工学会が引き継ぐ予定である。日本人間工学会には、これまでと同様、ご指導ご鞭撻をいただければ幸いである。尚、看護人間工学部会のホームページは、閉会の挨拶のために4月30日までは開設されたままになっている。その後5月1日より看護人間工学会のホームページに切り替える予定である。

日本人間工学会には、26年にわたり親学会として、たくさんのご指導・ご鞭撻、補助金をいただき、そのおかげで看護人間工学部会は成長し、独立した学会として設立できるまでになった。言葉では言い尽くせないほどの感謝の気持ちでいっぱいである。看護人間工学会の設立後は、日本人間工学会と対等、協力関係がとれる学会になれるよう、まずは日本学術会議協力学術研究団体に加入できるまでに成長していきたい所存である。

5-9. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

平成30年12月15日～16日、日本人間工学会関東支部第48回大会にて企画セッションを下記の通り、企画、開催した。

テーマ：海と人

目的：本企画セッションでは、海事社会で働く人（ヒト）の安心・安全の確保とその向上をテーマとし、船舶の自律化・自動化を目指したシステムの開発と人の重要性を取り上げるとともに、ダイバーの安全性を確保する様々な取り組みなど、海で活躍する人を対象とした最新の研究を紹介し議論を進める。

オーガナイザ：吉村健志（海上技術安全研究所）、司会：村井康二（東京海洋大学）

講演：

1. 「先端ナビゲートシステム～船舶自律化・自動化に向けた遠隔操船システムへの展開～」
庄司るり（東京海洋大学）
2. 「海中における表面筋電図の計測に関する研究」 才木常正（兵庫県立工業技術センター）
3. 「ダイバーを対象とした海中での心電図測定を試み」 福造博（大阪府立大学）
4. 「ダイバー安全監視を想定した口腔内における脈拍計測位置の検討」
瀧澤由佳子（兵庫県立工業技術センター）

2) 研究会・見学会の開催

兵庫県立農林水産技術総合センターの水産技術センターの見学は、今年度以降改めて日程調整を行うこととした。

3) 幹事会の開催

平成30年12月16日に神奈川大学横浜キャンパスで幹事会を開催し、随時、メールによる幹事会も開催した。

そして、平成31（令和元）年度の当研究会の事業計画（案）を策定した。

(3) 成果

企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。

(4) 展望

人間工学を専門とする若手研究者が、海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な研究会及び見学会を開催する。

5-10. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

- (1) ワーク・アーゴノミクス研究部会の活動についてのアンケート調査を行った（2018年9月）。
- (2) キックオフミーティング（2018年11月20日；日本大学理工学部）
・アンケート結果をもとに、研究部会の活動計画を立てた
- (3) 第2回幹事会（2019年1月15日；日本大学理工学部）
・第60回大会の企画セッションについて検討を行った

5-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ：

本部会は27年前、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称し発足した。毎年開催する大会は、今回、東海大学・神奈川工科大学が担当（共催）し、早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都

新宿区)にて3月7日、8日の二日間の日程で行われた。企業展示を含め、のべ100名を超える参加者があり、成功裏に終了した。近年、遠方(九州、北陸、東北)からの参加者も増え、特に若手研究者、企業関係者の参加増加傾向が認められる。本大会は、大学関係者と企業研究者の活発な情報交換も一つの特色であり、産学連携に向けた役割を担う側面も有する。大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：2018年7月14日(土)15:00～16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題：本大会の今後の事業形態・開催形態等

・第2回システム大会幹事会

日時：2018年11月10日(土)15:00～16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：2018年12月8日(土)16:00～17:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題：プログラム枠作成、企業展示検討、他

・第4回システム大会幹事会

日時：2019年2月23日(土)15:00～16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題：最終プログラム作成、大会進行詳細決定、他

(3) 展望：

発足時は大会幹事研究室の研究発表の性質が強かったシステム大会であるが、近年全国の研究者より演題が集まるようになった。より開かれた学会を目指し、さらなる他分野の研究者の参加、英文機関紙の発行を推進し、JES発展に向けて積極的展開を目指している。

Ⅲ. 2019年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：石橋 基範、中西 美和}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、安寧な社会システムを構築するために寄与することを目指す。
- (2) 第60回大会を青木和夫大会長のもと2019年6月15日(土)～16日(日)に日本大学理工学部で開催する。
- (3) 2019年定時社員総会を2019年6月15日(土)に日本大学理工学部において開催し、2018年度事業報告・収支決算、2019年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第61回大会を村田厚生大会長のもと2020年6月13日(土)～14日(日)に尾道市市役所本庁舎、尾道市民会館、しまなみ交流館(予定)で開催することとし準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページならびにニューズレター等を中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第55巻2～6号および第56巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、学会改革・戦略委員会、倫理指針検討委員会(正式名称：人間工学研究のための倫理指針検討委員会)、子供のICT活用委員会、IEA担当、選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会、第60回大会担当および第61回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、システム大会部会の計11研究部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)およびACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA会長業務のサポート、IEAウェブサイトの運用支援、IEA評議会およびACEDへの出席準備、IEAアワード申請への協力、IEAおよびACED内の各委員会の協力を行う。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/SC3、TC159/SC4、TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。
- (13) 2019年度各賞の授与式を行う。また、2020年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 若手会員の研究、キャリア形成、交流を支援する。
- (17) 企業での人間工学活動を可視化し、学会の活動に参加する企業のメンバーの倍増を目標とする。
- (18) 多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する学会改革アクションプランについて具体的な制度設計を行い、順次実装・展開をはかる。
- (19) 学校において安全で快適にICT機器を活用するための実用的なガイドラインの作成を、引き続き検討する。
- (20) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (21) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信していく。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の登録者数増加に向け、学会事務局、各委員会等と連携し、広報活動を行う。
- (3) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行う。
- (4) 学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を、引き続き学会事務局と連携し推進する。
- (5) Facebook の有効活用を進めていく。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、掲載事例の増加対策を検討する。

2-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：村木 里志}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う。
- (2) これまで「人間工学」に掲載されていた原稿をJ-STAGEへ掲載する作業を進め、学会誌のデジタルアーカイブを行い、原稿の閲覧の簡便化をはかる。
- (3) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について、委員会内および学会員との意見交換の場を設け、方針を定める。
- (4) 論文投稿の推進を図る。投稿推進につながるクイック・レビュー制度を継続するほか、推進施策について引き続き検討を行う。
- (5) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子査読管理システムを継続運用する。遅滞ない業務遂行を実現するため、学会事務局の協力を仰ぐ。利便性向上のために、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (6) 研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡に関して、学術担当と連携して会員への啓蒙をはかる。
- (7) 編集委員会を月1回開催する。うち、6回は対面委員会、6回はメーリングリストによる電子委員会とする。また対面委員会のうち2回程度は全体会議、4回程度は数拠点つないだweb会議とし、いずれも個人単位のweb参加を可とする。これにより、委員会経費の節減を図るとともに、編集委員の居住地格差が起きないようにする。
- (8) 学会誌の新しい投稿区分を積極的に活用し、人間工学領域の発展を目指した投稿の促進と新しい課題の共有を行い、学会誌を通じた学会員との対話の場を提供する。
- (9) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：鳥居塚 崇、副委員長：小谷 賢太郎}

- (1) IEA 評議会(ヘルシンゲル, デンマーク 8月 23-24 日)への参加
国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行
- (2) ACED 評議会(ジャランダル, インド 11月 6-7 日)への参加
国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行
- (3) 国際協力活動およびその他
・IEA アワード申請への協力

- ・IEA 内の各委員会への協力
- ・ACED 内の各委員会への協力
- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への国際学会参加報告の執筆
- ・そのほか、JES 活動に関する海外への情報発信など

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

ISO/TC159 (人間工学) 分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2) 日本主導で審議が予定されている項目

- ・WG2(高齢者・障害者の人間工学)
 - ・ISO/TR 22411 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)
- ・SC1 (人間工学の一般原則)
 - ・NWIP Ergonomics for children-Guideline for the design of products and services
- ・SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ISO/DIS 24509 Ergonomics - Accessible Design - Minimum legible font size for people at any age
 - ・ISO/CD 24500-1 Ergonomics - Accessible design - Part 1: Indicator lamps on consumer products
 - ・ISO/CD 24500-2 Ergonomics - Accessible design - Auditory signals - Part 2: Voice guides for consumer products
- ・SC5 (物理環境の人間工学)
 - ・ISO/CD 14505-4 Ergonomics of the thermal environment - Evaluation of thermal environments in vehicles - Part 4: Determination of the equivalent temperature by means of a numerical manikin

(3) 国際会議予定

- ・TC159/SC3 関連会議、TC159/SC4 関連会議、TC159/SC5 関連会議ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：水野 有希}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。
- (3) 前年度大会における優秀研究発表奨励賞の授与を行う。
- (4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5) 本学会以外の IEA 等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：首藤 由紀、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2019 の実行委員に佐相委員が就任し、オーガナイズド・セッションを企画・運営するとともに、幹事学会（日本化学会）はじめ関係学会と共にシンポジウム全体の運営を行う。

- (2)安全人間工学研究部会による研究会などを通じて、特定テーマに関する議論を深め、社会に向けた提言をとりまとめて発信する。
- (3)安全に関わる研究活動を行っている他の学協会との連携の幅を広げ、新しい交流・情報交換の機会をつくる。
- (4)安全人間工学研究部会による研究会等の企画・運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{担当：横井 郁子、青木 和夫}

- (1)日本学術会議、文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的に注視していく。
- (2)横断型基幹科学技術研究団体連合の理事として総会等に参加する
- (3)「人間工学研究のための倫理指針」について研究動向等から検討する。

2-8. 企画担当

{担当：岡田 明、三坂 昇司}

- (1)前年度に引き続き、学生・若手研究者へのサポートと企業研究活動の活性化を重点とした活動を行う。
- (2)上記の方針に基づき、全国大会においては以下の学会企画を実施する。
 - 1)学会改革・戦略委員会，若手支援委員会，広報委員会，企業活動推進委員会，国際協力委員会，企画担当理事との協同によるコラボ企画：ErgonomicThon+学生交流(ランチョン)カフェⅢ ～研究とキャリアについてかたりませんか？～
 - 2)企業活動推進委員会との合同企画：シンポジウム「企業における人間工学活動氷山の一角」
- (3)研究部会活動の可視化や成果発表を引き続き促進するため、各部会の活動状況を把握し、成果発表や企画等の働きかけやサポートを行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：鳥居塚 崇}

- (1)資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・資格認定試験（A 方式試験）を年 1 回、2 会場で実施する（東京、大阪）
 - 日時：2019 年 8 月 31 日(土) 10:00～14:00(予定)
 - 会場：東京・・・日本教育会館（千代田区）大阪・・・大阪クロススクエア(大阪市西区)
 - ・準専門家・人間工学アシスタント審査を年 4 回程度実施する。
- (2)定期総会、講演会、幹事会を開催する。
 - 講演会 2019 年 4 月 17 日（水） 15：00～16：40
 - 講演 1：福岡 曜 氏（アバナード株式会社）「これからの人間工学コミュニティに望むことー社会トレンド、ビジネストレンドの観点からー」
 - 講演 2：易 強 氏（静岡工業技術研究所）「公設試験研究機関における人間工学による企業の製品開発支援」
 - 総会 2019 年 4 月 17 日（水） 17：00～17：45 会場：中央大学駿河台記念館
 - 幹事会（2 回開催予定）
- (3)再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をする。
- (4)JES 第 60 回大会(2019 年 6 月)にシンポジウムを開催する。
 - タイトル：未来を切り開く ～機構の方向性と活動紹介、資格取得の必要性和展望～
 - 発表者：S-1 人間工学専門家の位置づけと方向性 福住 伸一((国研)理化学研究所)
 - S-2 準専門家資格周知ポスターの取り組みについて
 - 山本 雅康(ボッシュ株式会社) 澤田 明彦(Bold Graphic)

S-3 人間工学専門家資格取得の必要性と今後の目標

越野 孝史(合同会社 リアル・アイズ)

境 薫(富士通デザイン株式会社)

仲谷 尚郁(三菱重工業株式会社)

吉田 悠(日本電気株式会社)

- (5)機構ホームページ、会報、人材DB (ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6)CPE セミナー、CPE サロン(交流会)を充実させる。
- (7)「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞)の審査に積極的に協力する。
- (8)学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

[臨時委員会・担当]

2-10. 若手支援委員会

{委員長：申 紅仙、副委員長：加藤 麻樹}

- (1)若手会員(20代学部生・大学院生中心)の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (2)学生や若手が学会活動に継続的に関わることができるような枠組みを検討する。
- (3)全国大会、支部大会などの機会を活用し交流会を複数回開催する。
- (4)必要に応じて、大学を超えた学生たちの自主的な活動についても支援を行う。

2-11. 企業活動推進委員会

{委員長：易 強、副委員長：善方 日出夫、下村 義弘}

- (1)委員会活動の目的、目標
 - 企業での人間工学活動をもっと可視化して、アクティブにするための活動を行う。
 - 日本人間工学会の活動に参加する企業のメンバーの倍増を目標とする。
- (2)アクションプランの作成
 - 企業での人間工学活動の現状を把握する。各支部、委員会に参加している人からヒアリング、委員会のオブザーバーになっていただく。
 - 企業での人間工学活動のアクティブメンバーのネットワークを構築する。SNSや掲示板MLを活用して、相互訪問など連絡を密にする。抱えている案件、悩みを気軽に話し合える仕組みを検討する。
 - 目標を絞り、産官学の連携による短期的なプロジェクトを立ち上げて、活動するモデルを構築する。
- (3)活動成果の顕在化
 - 学会のホームページを通じて情報発信する。
 - 全国大会や地方大会で発表やシンポジウムを開催する。
 - 他の委員会と連携を取る。

2-12. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：山田クリス孝介}

- (1)理事会・各担当理事、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する学会改革アクションプランについて具体的な制度設計を行う。
- (2)必要に応じて、学会改革アクションプランについて学会員と定期的な意見交換(意識調査・シンポジウムなど)を行う。

- (3) ErgonomicThon企画の実施ならびにその他アクションプランの実装を進める事で、学会活動の活性化を促す基盤整備を進める。

2-13. 人間工学研究のための倫理指針検討委員会 {委員長:石橋 基範、副委員長:榎原 毅}

- (1) 教育・啓発活動の一環として、第60回大会で委員会企画シンポジウムを開催する。話題提供は以下の2題。石橋他:人間工学会における「人間工学研究のための倫理」に関する意識調査、榎原:人を対象とする研究倫理の現状。
- (2) 本年度内に改訂案初案を理事会へ提案し、第61回大会での紹介(委員会企画シンポジウム)、および令和2年度総会での承認を目標として、具体的な作成作業を行う。また、近接領域の学会との連携について検討する。

2-14. 子どものICT活用委員会 {委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や電子黒板などのICT機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもがICT機器を活用する上での人間工学課題を検討し、各種情報を交換するとともにガイドラインの考え方等を引き続き検討する。
- (2) 学校教員のみならず、児童生徒に対しても分かりやすい人間工学ガイドラインの作成を目指し、社会への貢献を図る。
- (3) ウェブサイトだけではなく、JES以外の他研究会などの機会を活用して人間工学ガイドラインを周知させ、効果検証や改訂等へフィードバックさせることを検討する。

2-15. IEA 担当 {担当:藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 前会長の業務、およびIEA表彰委員長の業務にあたる(藤田祐志)。
- (2) IEA ウェブサイトの運用、および次期IEAウェブサイトの開発に従事する(河合隆史)。
- (3) その他必要なこと。

2-16. 選挙管理委員会 {委員長:松田 文子}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-17. 役員候補者推薦委員会 {委員長:藤田 祐志}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する役員選挙に関わる次期役員候補者を検討し、推薦する。

2-18. 第60回大会担当 {担当:青木 和夫}

- 【開催日】2019年6月15日(土)~16日(日)
【大会会場】日本大学理工学部駿河台キャンパス
【懇親会場】同上

- (1) 大会企画特別講演1件, 大会企画パネルディスカッション1件
- (2) 一般企画シンポジウム12件
- (3) 一般企画ワークショップ3件
- (4) 一般講演 (口頭発表) 104件
- (5) 学・協会等から協賛 (予定19団体)
- (6) 大会案内はウェブサイト (<https://www.ergonomics.jp/conference/2019/>)
を活用して行う。

2-19. 第61回大会担当

{担当: 村田 厚生}

【開催日】2020年6月13日 (土) ~14日 (日) (予定)

【大会会場】尾道市市役所本庁舎, 尾道市民会館, しまなみ交流館 (予定)

【懇親会会場】尾道国際ホテル (予定)

【内容】社員総会, 特別講演, 一般講演, シンポジウム等

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 会議

1) 支部役員会 令和1年5月下旬（予定）

- ・平成30年度北海道支部事業報告、平成30年度決算報告
- ・令和1年度北海道支部事業計画、令和1年度北海道支部予算執行計画
- ・令和1年度北海道支部大会及び総会の予定
- ・その他

(2) 令和1年度支部総会並びに大会

大会長：吉成 哲（室蘭工業大学）

日時：令和1年11月9日（予定）

場所：小樽商科大学札幌サテライト（予定）

1) 支部総会議題

- ・平成30年度北海道支部事業報告、平成30年度決算報告
- ・令和1年度北海道支部事業計画、令和1年度北海道支部予算執行計画
- ・令和2年度北海道支部大会及び総会について

3-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

(1) 支部役員会

- ・年3回以上開催予定（支部研究会時に開催）
- 他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1) 日時：2019年5月下旬開催（予定）

2) 場所：未定

3) 議事：2018年度事業報告、2018年度決算報告
2019年度事業計画案、2019年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回以上の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化を目指す。

(4) その他

研究者と実務家の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長：矢口 博之}

(1) 第49回関東支部大会・第25回卒業研究発表会

- ・開催日：2019年12月7日（土）～8日（日）（予定）
- ・会場：千葉工業大学 新習志野校舎7号館
- ・大会長：中本 和宏 先生
- ・特別講演、企画セッション、一般講演、卒業研究発表会など

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：2019年6月15日（土） 会場：日本大学理工学部駿河台キャンパス

2019年12月7日(土) (予定) 会場：千葉工業大学
通信支部委員会を必要に応じて開催

(3) 支部総会

開催日：2019年12月7日(土) (予定) 会場：千葉工業大学

(4) 見学会

開催日：2020年3月に実施(産業技術総合研究所柏センターなどで計画中)

(5) その他

- ・企業・研究機関交流、講演会などを開催(予定)
- ・ニュースレターの発行(メールマガジンの活用を推進)
- ・支部HPのリニューアル など

3-4. 東海支部

{支部長：松岡 敏生}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

- ・ 開催日時： 令和元年5月18日(土) 15:00-15:30
- ・ 開催場所： 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト (名古屋市中村区)

(2) 講演会の開催

- ・ 開催日時： 令和元年5月18日(土) 15:45-16:45
- ・ 開催場所： 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト (名古屋市中村区)
- ・ 演題： 「UXデザインの実践と教育」
- ・ 演者： 芝浦工業大学 教授 吉武 良治 先生 ((一社) 日本人間工学会理事長)

(3) 支部役員会

- ・ 第1回支部役員会 令和元年5月18日(土) 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト
- ・ 年2回から3回開催予定、必要に応じてメール審議を実施

(4) 日本人間工学会東海支部2019年研究大会の開催

- ・ 開催日： 令和元年11月2日(土)
- ・ 開催場所： 名古屋工業大学 (名古屋市昭和区)
- ・ 大会長： 名古屋工業大学 准教授 神田 幸治 先生

(5) 東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」

- ・ 第16回から、年4回程度開催予定

(6) 東海支部 特別企画講座

- ・ 特別企画セミナー、企業見学会等を開催予定

3-5. 関西支部

{支部長：大須賀 美恵子}

(1) 企画・行事等

- 1) 2019年度 関西支部第1回見学会 2019年 6~8月頃
- 2) 2019年度 関西支部ワークショップ 2019年10月頃
- 3) 2019年度関西支部第2回見学会 (支部大会のプレ企画として実施)
開催日：2019年12月13日 (金)
見学先(予定)：金沢工業大学 ライブラリーセンター (工学の曙文庫), 夢考房, チャレンジラボ
- 4) 2019年度日本人間工学会関西支部大会 ※年度の記載を西暦に変更
開催日：2019年12月14日 (土)

会 場：金沢歌劇座（金沢市）

大会長：神宮 英夫 先生（金沢工業大学）

5) 2019年度 春季講演会（支部総会と併催） 2020年 3月下旬

(2) 会議等

1) 第1回幹事会 2019年 6月

2) 第1回評議員会・役員会合同会議（支部大会と併催） 2019年12月14日（土）

3) 2020～2021年度正副支部長および評議員選挙 2019年11月～2020年1月

4) 第2回幹事会 2020年 2月

5) 第2回評議員会（メール審議） 2020年 2月

6) 2019年度会計監査 2020年 3月

7) 第2回評議員会・役員会合同会議 2020年 3月

8) 2019年度関西支部総会 2020年 3月

9) 2019年度支部大会優秀発表表彰式 2020年 3月

※7～9は同日開催

3-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回：2019年12月8日（日），場所：広島県立総合体育館（予定）

第2回：2020年3月下旬，場所：未定

(2) 支部総会開催

2019年12月8日（日），場所：広島県立総合体育館（予定）

(3) 支部大会開催

第52回日本人間工学会中国・四国支部大会

2019年12月8日（日），大会長：横山 詔常 氏（広島県立総合技術研究所）

場所：広島県立総合体育館（予定）

(4) 支部講演会開催

2019年12月8日（日），場所：広島県立総合体育館（予定）

(5) 支部表彰の実施

2020年3月

(6) 支部主催・共催の研究会の実施

随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長：村木 里志}

(1) 活動計画

1) 2019年度支部代議員会

・開催日：2019年12月頃を予定

・会 場：九州北部を予定

2) 2019年度支部総会

・開催日：2019年12月頃を予定

・会 場：九州北部を予定

3) 第40回支部大会

- ・開催日：2019年12月頃を予定
- ・会場：九州北部を予定
- ・大会長：未定

4. 研究部会活動

4-1. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：吉武 良治}

<2019. 4. 1～2020. 3. 31>

(1) 2019年度研究部会テーマ

- 1) 第1期活動のまとめ
- 2) IoTセンサーによるビッグデータ入手方法の確立

(2) 活動内容(手段・方法)

- 1) 第1期(2014年 - 2018年)の活動成果をドキュメント化する。また、本年度中に学会誌に投稿する。これにより学会内外にビッグデータ・IoT活用における人間工学の重要性をアピールする。
- 2) これまでの活動で、ビッグデータの入手手段であるIoT+センサーの活用が重要な位置を占めることがわかってきた。どのようなセンサーをどのように使用することで何が判るのかをデータベース化する。

(3) 期待される成果

- 1) 学会外のデータサイエンティストに向け、人間工学の知識の重要性をアピールすることで人間工学への関心を寄せてもらい、学会員増を目指す。
- 2) 従来型の人間工学の活動のネックとなっていたデータ入手時のコスト高をIoT+センサーの活用により廃することで、人間工学研究および実践活動を社会に急速に普及させることができる。また、ビッグデータを入り口とした人間工学分野を普及させることで、ビッグデータの活用をベースとした人間工学専門家を大量に育成することができる。

4-2. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

<2015. 4. 1～5年以内>

(1) 活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2) 活動内容

- 1) 研究会を3回程度東京で開催する。領域横断型の研究会にするため、積極的に他学会の関連部会と共催を行う。また、研究会の一部はJES安全委員会発信の「安全に関する提言」にて提言を行うことができることを目標とする。なお、必要に応じて、外国からの講師を招く。
- 2) 全国大会での部会主催シンポジウムを開催する。
- 3) 安全委員会と協力し、学術会議主催の安全工学シンポジウムにてJES発信のオーガナイズドセッションを企画する。
- 4) 他学会の関連部会やその他組織から研究会やシンポジウムに、積極的に協賛する。
- 5) 部会員以外にもJESウェブサイト等を通じて開催を告知する。
- 6) 幹事は鳥居塚(日大)、中西(慶應義塾大)、吉村(海技研)、山出(社会安全研究所)、北村(JR総合研究所)。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

4-3. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

<2015. 4. 1～5年以内>

(1)活動目的

昨年度に引き続き、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と役に立つ PIE に向けて共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2)2019 年度の活動内容（手段・方法）

- 1) 第 60 回大会にて特別講演（渡邊 淳司（NTT コミュニケーション科学基礎研究所））とパネルディスカッション「ポジティブ心理学生理学」（パネラー：渡邊淳司，三宅晋司，栗谷川幸代）および企画セッション「ポジティブ心理生理学」（部会員より 6 演題発表予定）を開催する。
- 2) 前年度に引き続き部会編による生理計測に関する資料集（書籍）の執筆者による講演会を実施する。
- 3) 10-12 月頃にいずれかの支部大会で PIE セッションを企画する。
- 4) 3 月に講演会またはワークショップを開催する（関西支部総会時）。
- 5) 部会 website へ生理計測に関する情報（機器、解析ソフト、使用レポート等）を掲示する。
- 6) その他、ワークショップや講習会など、公開企画も含めて検討する。
- 7) 並行して、部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3)期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。部会外への情報発信により PIE の裾野を広げる。

4-4. 衣服人間工学部会

{部会長：土肥 麻佐子}

<2017. 4. 1～5 年以内>

(1)活動テーマ

平成 24 年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服の分野から着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2)活動計画

- 研究例会の開催 2 回開催予定
- ・8 月 講演および工場見学
 - ・2 月 講演会

(3)期待される成果

講演、工場見学、演習を行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換研究交流が期待される。

4-5. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

<2018. 4. 1～5 年以内>

(1)研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンフ

アクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 例会（公開講座）の開催

日時：2019年6月14日(金) 10:00-16:30

場所：野村不動産天王洲ビル 2F

【予定講演】として

- (1) 「Weather・EYE 気象影響防御技術の研究開発」(仮題) (JAXA)
- (2) 「Competency Based Training ～実運航に即した実践的な訓練の開発について～」(仮題) (ANA)
- (3) 「航空会社 (JAL グループ) における安全管理」(仮題) (JAL)
- (4) 「医療におけるレジリエンスの考え方」(仮題) (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
- (5) 「指差喚呼、先取喚呼、失念防止、速度超過防止」などに関して(仮題) (鉄道総合技術研究所)

2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学の多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。

また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-6. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

<2018. 4. 1～5年以内>

(1) 活動テーマ

「Future Experience」～ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法～

2019年度はフューチャーエクスペリエンス(FX)の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。また、日本人間工学会編として出版した「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」をスタートとした研究も、今回のテーマである「フューチャーエクスペリエンス(FX)」はユニバーサルデザイン研究の第4ステップとして位置づけている。

(2) 手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動強化

フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動を更に強化していく。部会活動のテーマである「「Future Experience」～ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法～」の検討を本格化させ、新たな

方法論確立に向け、実践によるプロセスを実施可能な形で明確にする。UD-WGの「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂は取りやめ、今回のテーマをユニバーサルデザイン研究の第4ステップと捉えて、一体化した研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2) フューチャーエクスペリエンス(FX)の啓蒙・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス(FX)」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントと兼ね合わせたセミナーやフォーラムを開催して、「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型デザイン手法」との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。2019年度よりFX教育WGを設立し、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるフューチャーエクスペリエンス(FX)「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型デザイン方法論」(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しいEXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4) 活動予定

- 4月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)
- 6月 FXフォーラム
- 8月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10月 見学会
- 11月 FXフォーラム開催(HCD_net 関西支部と合同)
- 3月 合宿研究会、総会、幹事会

4-7. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：笠松 慶子}

<2018.4.1~5年以内>

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やデザイナー相互の情報交換や交流をはかるとともに、若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない有益で具体的なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3) 期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、とくに若手研究者の裾野の拡大や関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難・課題を部会会員が相互に共有・議論する機会を提供・支援することを通して、人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。それらの過程で、こ

れまで職人の職能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、それらのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案・還元することで、これまでのモノづくりに新たな価値（例えば感性価値や経験価値）を付加することを可能とする。

4-8. 海事人間工学研究部会

{部会長：才木 常正}

〈2018. 4. 1～5 年以内〉

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。2019(R1)年度は東海支部大会で企画セッションを行う予定である。

2) 研究会・見学会の開催

2019(R1)年度は、7月頃に東京海洋大学の船舶用先端ナビゲートシステムの見学を予定している。

3) 研究会による新事業の提案

本研究会メンバーが中心となって海事人間工学の研究開発テーマを議論し、公的助成事業等にトライする。2018(H30)年度に検討した研究開発テーマを申請する予定である。

4) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度2回以上の幹事会を開催する。

(3) 期待される効果

企画セッション及び見学会の開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者との連携を発展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-9. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

〈2018. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

テレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。そこで、研究部会ではまずオフィスワークを対象に、自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学会会員向けに提供することを目的とした。

(2) 手段・方法

1) 見学会・幹事会 2019年4月4日 オカムラ椅子の博物館

2) 第60回大会における企画セッション「最新のオフィスワークと健康」

- ・ワーク・アーゴノミクス研究部会の活動について（青木和夫）
- ・オフィスワークと法令（城内博）
- ・オフィスの最新の動向（浅田晴之）
- ・オフィスワークの実際（井出有紀子）

3) 見学会・講演会などを数回開催予定

(3) 期待される効果

オフィスワーカーが快適な作業環境を自分で設定できるように、人間工学の専門家がどのようなアドバイスをしたらよいかについて広く会員に知らせることができる。

4-10. 自動車人間工学研究部会

{部会長：石橋 基範}

〈2019. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

① 将来モビリティに関する議論

自動運転や「空飛ぶクルマ」等の新技術領域で、社会デザインや働き方デザインの面から QOL や人間生活のあるべき姿について議論する。当面は自動運転にフォーカスする。

② 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

コクピット、先進運転支援システム (ADAS)、デザイン、運動性能等、従来の自動車開発領域で人間工学の適用事例を共有し、「使える人間工学」に持って行くアプローチについて議論する。

(2) 2019 年度の活動内容 (手段・方法)

1. 第 60 回大会で研究部会企画シンポジウム「自動車の研究開発における人間工学の活用」を開催する。
2. 自動車人間工学をテーマに、研究部会で独自に講演会を開催する。

(3) 期待される成果

QOL や人間生活の面から自動運転の人間工学に関する現状認識や課題の共有化を行える。また、自動車開発で「使える人間工学」に向けてグッドプラクティスや知見の共有化を行える。以上を通して、自動車人間工学の議論の活性化や当該分野における人間工学会のプレゼンス向上が期待される。

4-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

ヒトをシステム論的立場から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会は、今年で 27 年目を迎えた。毎年 3 月に開催される研究発表会 (システム大会) は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者、卒業研究生、修士研究生にとって、日本人間工学会全国大会 (毎年 6 月開催) ・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。さらに近年、全国各地から大学関係者、企業研究者の発表も増え、医学から工学にわたる幅広い分野の研究者が集い、議論できる同大会は盛況である。

(2) 活動の内容

第 27 回システム大会 (平成 30 年度大会、東海大学・神奈川工科大学共催) を早稲田大学理工キャンパス (東京都新宿区) にて開催した。例年に続き、今年度も同様の大会開催を計画しており、同大会を通じて、学生、若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。次期大会 (第 28 回システム大会、幹事校未定) 開催に向け、年数回、大学教員を中心に幹事会実施を計画する。

一般社団法人日本人間工学会2019年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	石橋基範、中西美和	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	大内啓子、辛島光彦	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	松田文子、齋藤祐太	HPの運用推進、GPDBによる実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	赤松幹之、村木里志	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	鳥居塚崇、小谷賢太郎	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	堀江良典、水野有希	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	首藤由紀、鳥居塚崇	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横井郁子、青木和夫	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	岡田 明、三坂昇司	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	福住伸一、鳥居塚崇	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	申 紅仙、加藤麻樹	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
企業活動推進委員会	易 強、下村義弘、善方日出夫	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討
学会改革・戦略委員会	榎原 毅、山田クリス孝介	学会活動の活性化をはかる組織運営のあり方について検討
倫理指針検討委員会	石橋基範、榎原 毅	人間工学研究のための倫理指針の改訂を検討
子どものICT活用委員会	柴田隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトの運営にかかわる支援
選挙管理委員会	松田文子	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
役員候補者推薦委員会	藤田祐志	次期役員候補者を検討・推薦
第60回大会担当	青木和夫	2019年6月15～16日に大会開催
第61回大会担当	村田厚生	2020年6月13～14日に大会開催

V. 定款の変更（案）

一般社団法人日本人間工学会 英文名称変更理由

各国及び地域の間人工学関連の学会で構成される国際人間工学連合（IEA: International Ergonomics Association）では「人間工学」を「Human Factors and Ergonomics」と常に併記するようになってきた。それに伴い、米国や英国等の人間工学会もその学会名称に Human Factors と Ergonomics を併記するようになってきた。そこで一般社団法人日本人間工学会もそれらに倣い、英文名称を「Japan Human Factors and Ergonomics Society」とすることとしたい。

なお、Human Factors と Ergonomics の順序であるが、先述のように IEA では「Human Factors and Ergonomics」という順序で用いていることに加え、現在、Human Factors と Ergonomics を併記する 8 の国と地域の学会のうち、英国と北欧を除く 6 の国や地域（オーストラリア、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、米国）の学会が Human Factors and Ergonomics という順序であることから、Human Factors and Ergonomics という併記の順序が現段階では世界的な標準になりつつあると考えられる。また略称については「JES: ジェス」という呼称が「日本人間工学会」を示す英文名称の略称として定着していることから継続してこの呼称を用いることとする。

一般社団法人日本人間工学会 定款変更案

【案件 0】 改訂期日

（現行）

平成 25 年 6 月 1 日

（変更案）

令和元年 6 月 15 日

【案件 1】 （名称） 第 1 条

（現行）

第 1 条 この法人は、一般社団法人日本人間工学会という。

2 この法人の英文名は、Japan Ergonomics Society とする。

（変更案）

第 1 条 この法人は、一般社団法人日本人間工学会という。

2 この法人の英文名は、Japan Human Factors and Ergonomics Society とする。

以上